

アメリカの人生相談コラム 「Annie's Mailbox」から見るアメリカ社会

遠藤昌子

1. はじめに

アメリカには、VOA [2002年8月4日]¹が説明するように、新聞や雑誌、テレビ、ラジオ、インターネットにおいて2種類の相談コラムが存在する。一つは健康、園芸、資産運用、教育などの特定の分野のアドバイスを専門家が与えるものである。もう一つは、恋愛や子供の問題、近所とのトラブル、エチケット、マナー、病気や精神的な悩みなど人生における様々な相談に答える人生相談コラムである。本稿では後者の人生相談コラムを対象として、そのコラムに寄せられた相談や解答などにはどのような傾向があるのかを探る。アメリカにおける人々の考えや出来事、価値観などを知るためには、文学や映画、またマスメディアで報道される事件や出来事などを情報とすることが多い。しかし、人生相談で取り上げられる投書やそれに対する回答を読むことで、より身近で等身大のアメリカ人の姿を窺うことが出来るのではないだろうか。なぜなら、人生相談コラムに寄せられる相談は、同時代の人々が日常生活の中で実際に経験していることであるからだ。また、掲載される投書は、読者の関心を考慮しながら選択され、相談に対する回答は相談者のみならず一般読者にも有益であり、納得のいくものである事を考慮して書かれるからである。

本稿ではクリエイターズ通信社から新聞やインターネット上に配信される人生相談「Annie's Mailbox」コラム²で2006年1月1日から12月31日に掲載された投書・回答を情報源とした。

最初に研究の枠組みを明確にするためにアメリカにおける人生相談の歴史を概観し、次いで多くの人生相談コラムの中から、調査の対象として「Annie's Mailbox」を選択した理由を説明する。そして、日

本におけるアメリカの人生相談コラムに関する先行研究を概観する。そののちに調査対象コラムにおいて2006年にどのような相談が掲載されたかを分類してその傾向を示し、さらに、投書に対する回答からどのようなことが読み取れるかを見ていく。最後に、投書や回答に対する他の読者からの反応をいくつかの問題ごとに一年間継続的にみていく。人生相談上で多面的な議論が継続的に行われる事によって、投書者、回答者、読者を巻き込んだ議論の場になり、それがインフォーマルな教育の場になり、そこから新しい価値観や社会慣習が生まれるのではないかと思われるからである。

2. 研究の枠組み

2-1 アメリカにおける人生相談

イギリスにおいて1850年代にLondon Journal紙上でlovelorn columnと呼ばれる人生相談が開始された。それに倣いアメリカにおいても19世紀末ごろに恋愛や他の悩みに答える人生相談コラムが新聞や雑誌に掲載されるようになった[シカゴ歴史協会]³。その中でも20世紀初頭から半世紀にわたって活躍したDorothy Dixが人生相談コラムニストとしてアメリカで大きな影響力を持った最初の人物といわれる。Dixは1896年から1951年まで人生相談コラムを執筆し、恋愛や結婚の悩みや、戦地の軍人へのアドバイスやペットを飼いたいという少年の投書への回答など、幅広い層からの投書とそれに対する回答を掲載した⁴。Dixのコラムは最盛期の1930年代には300紙以上に掲載されて、6千万人の読者を持っていた[Kogan 2003, p37]。

人生相談コラムの人気は1930年代の経済不況、1940年代の第2次世界大戦の頃には一時下火になっていった。しかし、1950年代には、アメリカでこれまでにないような人気を誇る2つの人生相談コラムが出現した。それは「Ann Landers」(1955年⁵)と「Dear Abby」(1956年⁶)である。

この代表的な二つのコラムはそれぞれ双子の姉妹 Esther Pauline

Friedman Lederer と Pauline Esther Friedman Phillips によって2ヶ月違いで執筆が開始されたものであった。この二つのコラムは開始と同時に人気になり、1961年には「Ann Landers」コラムは400紙に掲載され3千万人の読者がいた (Kogan, p83)。1981年のタイム誌でシカゴ大学の心理学者ユージン・ケネディはこの二つのコラムを「他に匹敵するものの無い国民的なコラム、基本的な社会常識を示すもの」と評した。このコラムはそれぞれ1,000紙に掲載され、合計すると国内外に1億3千万人の読者を持っていた [タイム誌 1981年1月19日号]。「Ann Landers」は筆者が2002年6月22日に83歳で死亡したときその遺言に従って7月27日をもって終了され、「Ann Landers」の名称の使用は将来にわたっても禁じられた。

しかし、「Ann Landers」の終了の翌日、2002年7月28日には、「Ann Landers」の長年の編集者たちの手で「Annie's Mailbox」が開始された。編集者の Kathy Mitchell は「Ann Landers」で19歳から約30年間、Marcy Sugar は22歳から28歳まで勤務、一旦結婚退職し38歳で復職した後、約20年間に渡り、共に2002年の「Ann Landers」の終了まで編集に携わっていた。この「Annie's Mailbox」は、クリエイターズ通信社において創設されたが、同社はロサンゼルスに本拠を持つ独立系コラム配信会社で1987年の創設以降「Ann Landers」を配信していた。フーバーズ社の株格付けサイト⁷によると、クリエイターズ通信社は1930年代以降に創設された独立系通信社としてはアメリカ第2位の規模であり、コラム、論説、コミックなど約100件を約2,400紙（新聞、インターネット）に配信している。

「Ann Landers」の娘で自分自身も人生相談コラム「Dear Prudence」を執筆している Margo Howard は「「Annie's Mailbox」は「Ann Landers」の人生相談の長い伝統を踏まえた上で、それに新世紀の新しい風を吹き込んだ。」と評した⁸。このコラムには毎日約800通の投書があり、創設後4年で700紙に掲載され読者数は約6000万人であり、[前述 Kogan, p217] 日本では朝日新聞社発行の英語ニュース紙に掲載されている。「Ann Landers」の伝統を受け継いだ

「Annie's Mailbox」は、このように掲載紙数、読者数、投書数が多いことから代表的人生相談コラムの一つといえよう。そのような理由から、本調査の対象として「Annie's Mailbox」を選択したものである。

2-2 先行研究

アメリカの人生相談に関する研究は日本では数が少ないが、比較研究の観点から、日米のラジオ人生相談の助言の談話構造を分析して阿部 [2001, 2004] は、日本の人生相談は「相談者の真意に沿った助言を与えることで相談者と悩みを共有し、同じ立場に立って問題と一緒に立ち向かう姿勢を示しているが、アメリカの人生相談は相談者の問題に対する回答者の専門的な立場からの助言の提示になっている」[2004, p42] と述べた。また、濱本 [2003] は人生相談「Ann Landers」を大学生の英語学習教材として使用し、外国の文化と自国の文化を比較しながら類似点、差異点を検証し討論した。その結果、異文化理解を助け異文化交流における誤解を少なくするのにアメリカの人生相談は有効と思われると語った。このようにアメリカの人生相談に関しては談話研究の観点から、また異文化比較の教材という観点からの研究が行われた。

それに加えて、アメリカ社会の実像を探りながら、人生相談が社会に与える影響を、川崎 [2003, 2004, 2005] は「Dear Abby」への投書と回答を編集した「The Best of Dear Abby (1981)」と「Ann Landers」への投書と回答を編集した「Wake Up and Smell the Coffee (1995)」を主な対象として調査研究した。

川崎 [2003] では、アメリカにおける結婚をテーマとして、ニュース映像のアメリカ大統領夫妻や映画やドキュメンタリーの映像で目にするアメリカ夫婦像から描きがちなイメージと、人生相談から見る実像との違いを指摘した。アメリカにおいても依然として家庭における伝統的な男女の役割意識が強いこと、夫婦間の暴力、性の不一致、経済問題などに苦しむアメリカ人が多い事を統計と照らし合わせながら説明した。また、川崎は、人生相談の回答においての離婚に対する姿

勢が、時代とともに変化していく事に注目した。1960年代の回答では「Ann Landers」も「Dear Abby」も離婚に否定的であった。しかし、多くの投書に接するうちに、離婚を人生の選択肢の一つとして認めるようになっていった。人生相談の回答の傾向が変化し離婚を認めるようになった時期は、職業につく女性が増加し女性が経済力を持ち始めた時期とも一致し、また離婚率の上昇の時期とも一致した。1993年に離婚が増加する傾向を懸念して、Ann Landersは読者を対象に離婚したことを後悔しているかどうかの調査を行った。約3万通の回答が寄せられたが、離婚したことを後悔しているのは約25%でその3倍の約75%は離婚して良かったと回答した⁹。このような数字を人生相談コラム上で発表することによって、不幸な結婚生活に苦しみながらも離婚を逡巡している人に人生の決断を下す後押しをした。

人生相談のそのような姿勢は、社会的に大きな影響があったと川崎は次のように述べる。「アンとアビーのコラムが次々に寄せられるそのおぞましい（結婚生活の）実態を公にし、人生の選択へのアドバイスを社会にアピールし続けたことが、人の心にも社会認識にも変化をもたらす大きな力になったのではないだろうか。」[2003, p89]

アメリカの離婚率は約50%であるが、離婚後に再婚する割合が高く、全結婚のうち20%強は再婚同士の結婚である。川崎[2004]では、離婚、再婚、あるいはさらに再離婚、再々婚と、家庭が複雑になることで生まれる問題を取り上げた。子供の存在が2度目の結婚の成否を左右すると同時に、両親の離婚、それに次ぐ再婚、さらには再離婚という家庭環境の変化によって子供が強い影響を長期間受けることが人生相談に寄せられる投書から示された。しかし、離婚に伴う問題があることは認めただうえで、「不愉快な関係は清算し、よりよい人生を求めて再婚、再離婚する」といった人生相談から窺えるアメリカ人の姿を川崎は肯定的に評価し「希望を託して敢えて挑む。アメリカ人のその姿勢には彼らの中にある人生をあきらめない前向きにしたたかさ、潔さ、勇気、積極性、あるいは楽天性といえるものが見えてくる」[p108]と述べた。

川崎 [2005] では人生相談コラムで同性愛者の問題がどのように扱われてきたかが、研究対象であった。同性愛に関しては、1960年代初めにはアメリカ精神医学協会は、同性愛を倒錯性精神障害であると規定しており、社会的にも精神障害と見られていた。のちに、1987年の「精神疾患の診断・統計マニュアル第3版改訂版 (DSM Ⅲ)」では、同性愛を疾患とする項が削除された。しかし、精神障害であるとのレッテルがはずされてもなお、社会には差別意識が存在した。差別意識があるゆえに同性愛者は自分の性的傾向に苦悩し、同性愛者を持つ家族も苦悩した。それに対して、「Ann Landers」は同性愛が遺伝子的なもので、抑制は出来るが変えることは出来ないとの考えをコラムで述べ、また、「Dear Abby」は同性愛者からの様々な意見を取り上げコラムで紹介した。このような事から、川崎は人生相談コラムが一般読者に同性愛についての多面的な情報を伝える役割を担い、同性愛への偏見を捨てるよう呼びかけ、同性愛者の人権について啓蒙した。それによって差別や同性愛者の苦しみを軽減する事に貢献したと評価した。

以上概観したように、日本においては、比較研究の対象として、談話構造、異文化教育教材としての有効性に関して研究が行われた。また、結婚、離婚、同性愛というテーマを通してアメリカ社会の姿についての研究が行われた。しかし、これまでに、一定の期間のアメリカの人生相談への投書と回答、読者からの反応に継続的に注目し、そこからどのようなことが読み取れるかについての研究が行われたことはなかった。

人生相談コラムでは、回答者は読者にとって関心が高いと思われる問題を掲載し、相談者や読者にとって適切であり納得のいく回答を示すことに努める。投書の選択、回答のための調査、回答のいずれの過程においても、読者の問題意識に敏感である必要がある。読者数の多い人生相談コラムはそれゆえ、アメリカ人にとって関心の高い問題を取り上げ、読者の共感を得られる回答を与えると思われる。本調査

の対象コラムもアメリカにおいて長い歴史と定評を持つコラムの伝統を引き継ぎ、多くの読者を持つコラムである。掲載する問題と回答には、アメリカ人の関心の深い問題が取り上げられ、読者に納得のいくような考え方や社会規範を示していると言える。その人生相談コラムの相談と回答を継続してみていくことで、アメリカ社会の価値観、社会慣習が見えてくるのではないだろうか。また、人生相談が社会にどのような形で影響を与えるかも推察できるのではないだろうか。本稿では、2006年に寄せられた相談とそれに対する回答や他の読者からの反応から見えてくるものを探りたい。

3. 調査

3-1 調査対象

本調査の対象はネット上のクリエイターズ・コラムに2006年1月1日から12月31日までに掲載された「Annie's Mailbox」である。「Annie's Mailbox」は毎日掲載され、コラムの長さは英単語約600語である。一つのコラムには通常は相談が2件と、過去の相談と回答に関する他の読者からの反応が1件掲載される。コラム半分で最初のメインの相談と回答が、残りの半分でもう一つの問題と回答、過去の投書への反応が書かれる。また、特別な日にはその日にちなんだ投書やエッセーなどが載せられることもある。例えば、2006年には新年、バレンタインデー、母の日、独立記念日、感謝祭などにその機会に関連したエッセーや詩が掲載された。それに加えて、交通事故の悲惨さを訴えるエッセー、義母に感謝をささげるエッセー、高齢者であることをユーモラスに謳う詩など様々なメッセージを持ったエッセーや詩なども掲載された。さらには、社会的に重要性のある情報や、公的機関の広報が掲載されることもある。2006年には医療保険無加入者に対する救済措置、性犯罪者の公表制度、高齢者医療保険の新制度に関する情報などが掲載された。また、多宗教であるアメリカ社会を反映してキリスト教、ユダヤ教、イスラム教、仏教、バハイ教などアメ

リカで信仰されている各宗教の祝祭日には祝辞が述べられた。以下に2006年のコラムの概要を相談掲載件数、相談者特性、相談内容の順に述べる。

3-2 人生相談の投書

最初に、2006年の投書の件数、内容別の内訳、投書者の性別を示し、投書が個人の立場で書かれているか、あるいは職業や機関の代表として書かれているかを示す。

表1で示すように、相談は736件で、過去の相談や回答に対する他の読者からの反応は306件であり、エッセーや詩などは21件であった。機関や職業の立場からの投書は50件で、残りの992件は個人としての立場からの投書であった（表2参照）。

性別に関しては、多い順に女性が567件、性別不明が320件、男性が155件であった（表3参照）。性別不明が多いのは英語の人称や名称が性別を表現しない場合が多いからである。例えば、Iという表記は男女を問わずに使われる上、英語では表現に性差が現れる場合が少ない。また、親はa parentと表記され母親であるか父親であるかは不明である。a grandparentに関しても同様である。また、a student、a neighbor、a lawyerなども同様に性別は特定できない。そのために性別の判断がつかないことがあり、結果として性別が不明な投書が多くあった。

アメリカは多民族国家であるので、様々な人種のアメリカ人によって投書が書かれたと推定されるが、人種問題が相談内容である以外は相談者の人種は不明であった。年齢に関しては、記載されている場合や結婚期間や子供の年齢などから投書者の年齢を推定できる事があった。投書者は多くは成人であったが、明記されている中では最年少は10歳で最高齢は94歳であった。投書者の職業として記載されたのは主婦、退職者、農業者、工場労働者、医者、弁護士、司祭、教師、学生、失業者など多様であった。

表1 投書の内訳

相談	736
過去の投書、回答に対する 他の読者の反応（以下、反応）	306
エッセー、詩、広報	21
合計	1063

表2 投書、反応の筆者立場（エッセー等は除く）

個人	992
機関・職業などの立場	50
合計	1042

表3 投書、反応の筆者性別（エッセー等は除く）

女性	567
男性	155
不明	320
合計	1042

2006年に掲載された相談投書の件数は736件であった。人生相談の投書の内容による分類は、早くも1953年に加藤秀俊が行い、肉体的、人間関係、集団内人間関係の3種類に分類した〔加藤1953, p18-19〕。しかし、本調査は時代と社会背景が異なるために投書内容を以下のように4つに分けた。

問題の焦点であったのが、1) 人間関係であったか、2) 個人的な問題であったか、3) 児童に関する問題か（アメリカ児童福祉局の定義に従って18歳以下）、4) 社会慣習やマナーなどであったかという4種類である。

相談された内容の背後に、これまでのその問題に関するいきさつ、他の面での問題、投書者の個性、経済状況などが読み取れることがあり、それぞれの問題を分類することは困難であった。例えば、夫婦が不仲であり離婚を検討している場合、夫婦の年齢、結婚年数、経済状態、不仲になった理由、そして、子供がいるか、また子供の年齢は何歳かで、状況が違って来る。また、相談者自身が離婚を希望しているのか、離婚を回避するのが希望かで相談の焦点が違って来る。本稿では、そのような点に配慮したうえで分類を行った。

その結果、表4で示すように、掲載された相談は人間関係に関するものが381件で、個人的な問題に関するものが117件、児童に関するものが70件、社会慣習やマナーなどに関する相談が168件であった。

表4 掲載された投書相談内容の分類

1. 人間関係	381
2. 社会慣習・マナー	168
3. 個人	117
4. 児童	70
計	736

次に人間関係に関する問題では、さらにどのような関係においての問題なのかを家族、友人、職場の3つに分類した(表5参照)。その結果、家族間の問題は313件であり、友人や近所との問題は47件であり、職場での問題は21件であった。

さらに、家族間の問題に関しては、夫婦、親子、兄弟姉妹間の問題に分類した(表6参照)。その結果、夫婦や婚約者、同棲者間の問題は153件であり、親子、祖父母と子供や孫など間の問題は117件であり、姉妹、兄弟、伯父叔母など親戚間の問題は43件であった。

表5 人間関係の問題

家族間	313
友人・近所	47
職場	21
計	381

表6 家族間の問題

夫婦、婚約者、同棲者	153
親子、祖父母、家族	117
姉妹、兄弟、親戚間	43
計	313

次には投書内容を夫婦間、親子間、兄弟姉妹間、友人間、職場、個人、児童、社会慣習に関する問題の順に紹介する。

3-2-1 人間関係の問題

(1) 家族間の問題

■ 夫婦間の問題

アメリカの家族の形態が複雑であることが、夫婦間の問題を複雑にしている。瀬戸岡 [2005, p.214] はアメリカの家族の多様な形態を次のように描写する。

ステップ・ファミリー (Step Family; 子連れ再婚夫婦)、シングル・ペアレント (Single Parent; 多くは離婚または未婚の母の出産によって生じる貧困な母子世帯)、デインクス (DINKS=Double Income No Kids; 子供が出来ないかキャリアのために子供を作らない夫婦が二人で収入を得ている)、子供が逃げ出して戻ってこなくなった家族 (Empty Nesters)、結婚という形式をとらないペアーや家族 (Common-law Marriage = Cohabitation) 単身者世帯 (Single)、一人暮らしの老人、同性愛者の家族、ブレンド家族 (Blended Family)、雑居生活者 (台所、フロ、トイレ・テレビなどを共有し電気・ガス・水道代金を均分)。いまや、夫婦と子供で構成する核家族は全体の4分の1ほどに減少してしまいました。子供3人のうち一人は未婚の母から生まれています。子供の半数は18歳になるまでに一時期であれ片親と暮らす経験をします。

このような家族の姿の多様さを考えて、本調査では、法律上の夫婦、内縁の夫婦、同棲中、婚約者を夫婦とした。夫婦間の問題には、前の結婚相手、同棲相手や、前の結婚での子供たち、それぞれ義理の親など複雑な人間関係が背景にあることがあった。夫婦間の問題の相談内容は、家庭内でのお互いへの期待感の違い、性の問題、家庭内暴力、金銭問題、それぞれの親や子供が原因での不仲、育児方針の違いなどであった。その一つの例として、家事責任においてお互いへの期待感が違い、その背後に家庭における伝統的な男女の役割意識があると思われる投書例を以下に示す。

アニー様 (5月28日)

全く活動的ではないのに、健康な人間もいるのです。夫が良い例です。毎日毎日、ただ座っています。立つのはトイレに行くときと、食べる時だけです。去年、芝刈りをしたのは3回で、たまにごみを出すぐらいです。私も退職して家にいるので、夫が家事を何にもしないことが気に触ります。「家事は一切しないから、手伝ってもらいたいなら子供に教える事」とずっと前に夫には言われているのですが。でも最近、あまりに腹が立って心臓発作を起こしそうです。暖かく愛情豊かな関係でいたいののですが、夫には召使のように扱われ、感謝の言葉もないので、そういう気になりません。

アニー様 (2006年10月6日)

夫は就職しようとしません。そして、働いている私が「妻としての仕事を」きちんとしないと責めます。夫は1月から失業保険をもらっています。私がフルタイムで働いていて給料も良いので、それで良いと思っているようです。働いて欲しいとお願いしたのですが、そのたびに「うるさく言わないなら就職する。」というのです。だから3ヶ月前から何も言わないようにしています。ですがまったく就職活動をしません。一日中テレビを見ながらお酒を飲んでいます。そして、2歳の息子の世話をするために朝起きなければならないといって怒り出す始末です。夫の収入がなければ保育所に息子を預ける余裕はないと話しました。このままなら、持っているものすべてを失う事も。でも、全く耳を貸しません。夫は私がすべて支払をするものだと思っています。私の前夫との子供4人も同居していますし、夫の子供3人も週末や夏休みにやって来ます。私の収入は食料にすべて消えていきます。少しでも収入の足しにしようと残業も喜んで引き受けています。そうすると夫は、2歳の息子の前で、浮気をしている、うそをついている、家族のことなどどうでも良いと思っていると、私を責めます。離婚したくないのですが、カウンセリングはいやだと夫はいうし、もう疲れ果てました。

■ 親子間の問題

親子間の問題には、実の親子間の問題、嫁姑など義理の親子、再婚後の新たな家族と前の家族との問題などがあつた。また、祖父母と生活する孫が増えている事を反映してか¹⁰ 祖父母と子供、孫という3世代を含む問題もあつた。親子間の問題についての相談には親側からは、成人になっても自立しない子供への苛立ち、結婚後に配偶者側の

家族と親しくする子供への不満、老後に子供が離れていくことへの怒りや寂しさが多く見られた。また子供側からは、自分や自分の家族に対する親の無関心や兄弟間のえこひいきが原因の怒りや寂しさや嫉妬、子供時代の虐待や愛情不足感から来る不満、支配的に価値観を押し付け常に否定的な見方をする親への疎ましさなどの問題が多く見られた。親子間の問題に関する投書で、子供側からの相談の例として一番件数の多かった親のえこひいきに苦しむ子供からの相談例を次にあげる。

アニー様 (2月20日)

両親が姉家族だけをひいきすることがつらいのです。中年で子供が4人いる男性です。両親はいつも、姉とその家族のだけに時間やお金を使うのです。姉家族しか眼中にありません。姉の子供たちには新車を買って、そのガソリン代や保険料も出し、アパート代も出してあげます。ですが私の子供達は何もしてもらったことがありません。姪や甥はもう成人しましたが、私や私の子供たちに関する悪口やうそを両親に吹き込み、それを両親も信じ込むのです。どう思っているか両親に話したほうが良いのでしょうか。両親にとっては姉がすべてなので、態度は変わらないと思うのですが。今は両親との縁を完全に断ち切ろうかと思っています。

アニー様 (7月24日)

結婚16年です。いままで夫は自分の母親のために色々してあげてきました。夫は長男で下に兄弟姉妹がいます。夫は母親らしいことをしてもらっていません。去年ですが、夫は母親の家を改築して住みやすいようにしてあげました。ですが、クリスマスや誕生日になっても、母からはカード一つ来ません。孫の誕生日でさえ、電話の一本もありません。それに反して、母は妹やその家族のことはとても大切にします。妹からは、何もしてもらえなくても妹家族には贈り物やカードを欠かしません。それで夫はもう5ヶ月も母親と口をきいていません。私は間を取り持つ気はありません。どっちにしても、義母は悪いのは私だと思ってしまうでしょう。義母に夫の気持ちを伝えるにはどう言ったら良いでしょう？

アニー様 (9月17日)

54歳の女性です。愛情にも恵まれ成功しているのに、86歳の母の言葉や態

度に簡単に傷つくのです。母は口を開くたびに、太っている人のことを話題にします（私は太っています）。家族全員（20人）をプールパーティーに招待しない限り母は私の家にはやって来ません。昔はよく家族パーティーを開いていました。ですが今は友人や家族と少人数で過ごしたいと思えます。ある日、母は私の家のすぐそばまで来たのですが、寄らずに帰りました。どうして来てくれなかったのと聞いたら「来て欲しいならパーティーをすれば」といいました。母に会いたくて月2回母のところに行きます。4人兄弟で、母が一番上の子が気に入っているとはっきり言います。母は、私を私として受け入れてくれません。自分のコントロールできるような娘になって欲しいのです。母は私たち兄弟に、これまで沢山お金をくれましたが、いつも条件付でした。自分の気に入らないと怒るのです。どうして、この年になっても母のことがこんなに気になるのでしょうか。どうして母に受け入れてもらいたいと思うのでしょうか？どうして母は私にこんなにも影響力があるのでしょうか？

アニー様（11月11日）

結婚23年で3人子供がいます。夫の母と同じ市に住んでいますが、私たちの子供の行事には義母はめったに来ません。ですが、他の孫のサッカーの試合やバレーのリサイタルには2時間も運転して出かけるのです。何かして欲しいことがある時だけ電話してきて、すぐに来て芝刈りをしてとか電球替えてとかいうのです。義母は誰に対しても失礼ですが、私の子供たちの心を傷つけるのを見ているのが一番つらいのです。先月、子供のいとこたちが一週間、義母のところに来ました。うちの子供たちも電話をして、一日とまりに行きたいといったのですが、子供の数が多からと断られました。義母は後で招待してくれると約束したのですが、電話はかかってきませんでした。帰る前の日に、義母はいとこたちと家の裏庭にアイスを食べながらやってきました。いとこたちは、おばあちゃんと泳ぎに行ったり、ミニゴルフをして楽しかったと話すのです。うちの子供たちはどこにも招待されませんでした。一緒に連れて行ってくれなかつただけではなく、わざわざそれを言いに来るのです。残酷です。義母は私たちの家や、活動や、服装や、とにかく何でもけなします。私は、できれば義母とは関わらないようにしています。義母には失礼にならないように接してきました。はっきり思っていることを言おうかと思ったのですが、母は弁も立ちますし、人を操る名人なのです。

■ 姉妹・兄弟間の問題

姉妹兄弟や親戚間の問題には実の兄弟姉妹、それぞれの配偶者である義理の兄弟姉妹を含む問題、さらには親の再婚や前の結婚によって義理の兄弟姉妹となった家族を含み、さらには、伯父や叔母や姪などの親戚間の問題を含む。兄弟姉妹がそれぞれが成人し、配偶者を持ち、別々の職業につき、別の地域に住むようになり、だんだん疎遠になっていく。そして、経済格差が生まれることや親の愛情や賞賛をめぐるライバル意識が生まれること、介護責任や遺産をめぐる思惑などで問題が複雑になるようであった。次に、成人してからの経済格差も関係して軋む兄弟姉妹間の問題例を紹介する。

アニー様 (1月5日)

夫の姉が近くに住んでいて、とても裕福です。4人息子がいるのですが、誕生日にはたくさんの人を呼んで盛大にパーティーをします。出席するように熱心に招待されます。もし出席しないと後であれこれ言われます。いやなのは、姉は私たちの4人の子供の誕生パーティーにはこれまで理由をつけて出席せず、贈り物もカードもよこさないことです。私たちのことは考えてくれないし、自己中心的なのでもう姉の子供の誕生日にも行きたくないのです。夫は、問題を起こしたくないから姉の態度は気にしないで誕生日には行ってくれといます。この5年我慢してきました。もうたくさんです。

アニー様 (2月23日)

義姉が最近、夫の両親の結婚記念豪華パーティーをしました。そして各兄弟に800ドル会費を払うように言いました。私たちにはとても出せる金額ではありません。夫は写真家なので写真を撮り、みんなに配ることで会費がわりにしたいと頼みました。ですが、姉は別のカメラマンを頼みました。それで、会費は少しずつ支払うといったのですが、払わなくても良いといわれました。ですが、兄弟にはパーティー以来馬鹿にされています。両親はパーティーにかかった費用を知りません。知ったら驚いて死んでしまうかも知れません。お金がないからといって家族からはじき出すようなことをされて傷ついています。

アニー様 (11月5日)

長女で、たくさんの兄弟姉妹がいます。実家ではクリスマスよりも感謝祭が大切な行事で、今までは母がパーティーをしてきました。なるべく出席する、でも、出来ないときは出席している家族と電話で話すという風にしていました。一人の妹が、この伝統を破って自分の家で感謝祭をしたいというのです。数百マイルも離れているのです。妹が自分の高価で立派な新築の大きな家を見せびらかしたいからだろうと他の姉妹は感じています。私はそんな見栄には付き合いたくないと思いました。そこで、妹の感謝祭に参加したくない姉妹のために、自宅で感謝祭をしようと思います。妹に対して悪意はないのです。妹の家が素晴らしいことはうれしいです。ですが、こんな機会に見せびらかすべきではないと思うのです。

(2) 友人や近所との関係における問題

友人間の問題には、職場や教会、地域、ボランティア活動、スポーツや愛好会での友人など様々な場や、長年の友人間で起きた問題を含む。友人間の問題では金銭問題、何かのきっかけに信頼関係が揺らいだこと、付きまとして来る友人への疎ましさ、友人間のいじめ、過去に断絶した友人関係の修復を希望するといった投書であった。又、近所の人との問題とは地域においての人間関係で起きた問題である。次には、近所との関係における問題例を紹介する。

アニー様 (7月17日)

2年前に都市の再開発地域に住みはじめました。平たく言えば都市部のスラム街です。小さい家ですが気に入っています。少しでも、地域の環境がよくなるよう家の周りをきれいにしています。ですが、いろいろ嫌がらせを受け、住むのが嫌にもなってきました。チューリップは茎から折られ、マリーゴールドも根から抜かれます。庭にごみを捨てられ、釘付けしていないものは何でも盗まれます。クリスマスの電飾も盗られました。車のドアがこじ開けられドアが開けっ放しにされます。朝出勤するときにバッテリーが上がっています。それがしょっちゅうです。引っ越してきたときにバーベキューに近所を招待したのですが、誰も来ませんでした。ある人が忠告してくれたのですが、近所では私たちのことを「お高くとまって」と言っているそうです。確かに、このあたりでは唯一の大卒夫婦です。ですが芝刈りをするだけで、お高くとまってると思われ、仕返しに花壇を荒らすな

んで！家の修復に手をかけてきましたが、もう引っ越そうかと思っています。でも本当は引っ越したくないのです。

アニー様（8月2日）

近所の方が癌の化学療法を受けています。彼女に頼まれ、病院まで車を運転していきました。駐車場で駐車禁止の場所にはみ出して車を止めてしまいました。治療が終わって帰ってくると、駐車違反の紙がフロントガラスに張られていました。私の車はセダンですが、病院へは彼女の大きな車で行ったのです。280ドルの罰金と知って彼女は困ったわといいます。だから事情を話してみたらと言いました。担当部署に連絡すると、「状況を説明する手紙を書いたら、委員会で同情してくれて罰金が減額されるか免除されるだろう」といわれたそうです。それで彼女は、私の運転免許証のコピーを送るといいます。でもそうすると、私が罰金を支払うことになります。彼女には夫の収入も年金もあるし、小さい子供もいません。私は現在無職で無収入です。高齢の女性宅に住まわせてもらい、その代わりに家事をしている状況です。頼まれて運転しただけなのにどうして私が支払わなければならないのでしょうか？私の責任にするべきではないと思います。

アニー様（11月24日）

3年以上、全国的なNPO機関のメンバーです。最近このNPOの女性部のある女性が、他の女性が自分にひどいことをするというのです。胸にたまっているものを言えば楽になるかと思って、他のメンバーへの不満を聞いてあげますが、最近、本当のことなのかどうか疑いだしました。というのも、その女性たちと一緒にいるときは本当に仲が良さそうなのです。彼女には、どちらも大切な友人だから一方の肩を持ちたくないと話しました。彼女がNPOをやめると困るので、支部長にこの件は話しました。色々やってくれているご主人も彼女がやめると一緒にやめるでしょうし。支部長は彼女とご主人に直接話すといってくれました。ところで次に、彼女が不満を言ったときも聞き役に回ったほうが良いのでしょうか？

(3) 職場における問題

職場における問題には、職場におけるいじめ、自分や同僚の不倫、セクハラ、人種差別の問題や、同僚や上司との人間関係の悩みが掲載された。その中から、いじめと職場の上司の不倫、セクハラの問題に対して、何の解決策も会社側から示されなかったことに関する相談例

を示す。

アニー様 (1月9日)

20代の息子は、大手ピザチェーンで宅配の仕事をしています。息子はゲイではありませんが、次長が息子をゲイだとからかうのです。トイレに落書きまでされました。セクハラにならないのでしょうか？息子は地域のマネージャーに苦情を申し入れましたが、何の手も打たれずうつ状態になっています。次長は会社にコネがあるので、何の手も打たれないのかもしれませんが。

アニー様 (2月11日)

仕事は好きですが、一つ困っています。同僚が他の同僚の事を馬鹿にしたようなことをいうのです。他の人のほうが自分より仕事ができるのに、彼はそう思っていないからです。失礼なことを大声で言うので、みんな嫌な気がします。会社側にこの件を話しましたが、会社は仕事振りも熱心だし、投薬を受けていることが原因だろうと彼の行動を弁護するのです。組合も、彼を有能だと評価しているようです。私は16年勤務しましたが、こんな状態にはもううんざりしたので辞めようかと思っています。

アニー様 (6月29日)

医療機関で働いています。過去8ヶ月間、看護部長が看護師と不倫をしています。どちらも既婚です。不倫は個人の問題ですが、職場で二人が不適切な行動をするのが問題です。病院施設内でのそのような行為は、職業倫理に反すると思います。上司に話したのですが、二人がそのようなことをしているとは信じないのか、何の手も打ちたくないのか。何もしてくれません。個人的な問題であることはわかりますが、私たち部下に施設内での密会を止めさせる権利がありますか？

アニー様 (9月4日)

2ヶ月前、職場で性的嫌がらせを受けました。会社は民間の探偵を雇って私の申し立てを調査し、3つの選択肢を提示しました。密約書にサインして忘れる、4週間分の賃金を受け取り告発せずに自発的に退職する、解雇の3つです。サインも自主退職もしなかったのに、解雇されました。それは、気にならないのですが、ひどいと思うのは、私からパートの仕事を奪い、学校にも行けなくした（夜間の授業を取っていたのですが、恐ろしくて授業に出席できません）男性が、何の責任も取らずにそのままいることです。警察にも行ってすべて話したのですが、法的には何の手段も取れませんでした。

した。私は実際にレイプされたわけではないからです。

3-2-2 個人的な問題

個人的な問題は1) 身体的、精神的な病気、2) 鎮痛剤、アルコール、タバコといった依存性のある薬物への依存、3) 容姿や体重、身長、体臭といった外見に関する問題、4) 内気な性格、友人や恋人が出来ないといった孤独感、5) ゲイやレスビアンの悩み、6) 死への恐怖感や喪失感、7) その他、に分類した。

表7で示すように病気に関する相談が54件で一番多かった。次いで、薬物やアルコールといった依存症に関する悩みが21件、性格や孤独感に関する相談が11件、外見に関する相談は10件であった。さらにはゲイやレスビアンに関する悩み、また、身近な人の死を経験したことによる喪失感や死に対する恐怖感がそれぞれ9件であった。

表7 個人の問題

病気	54
依存症	21
性格、人付き合い	11
容姿、体重、身長、体臭	10
同性愛、異性装嗜好	
性同一性障害	9
死への恐怖、身近な人の死による喪失感	9
その他	3
計	117

相談された病気には、アルツハイマー病、癌、心臓病、肺病、性病、ライム病など多様な身体上の病気があり、また、躁鬱病、精神分裂病、トゥレット病、注意欠陥障害、脳損傷による高次機能障害、外傷後ストレス障害などの日常生活に支障のある精神や神経の病気などがあつた。病気に次いで多かった依存症に関する相談では、アルコール、薬物、喫煙、ポルノ、ギャンブル、パソコンゲームなどへの依存に関する投書があつた。依存に関する相談のうち、薬物依存に関してはNPO機関の項で、またアルコール依存に関しては、継続的な議論の項で取り上げる。以下には、個人の問題に関する相談投書の例とし

て、性格、外見、同性愛、死への恐怖に関する相談例を紹介する。

■ 孤独感・性格に関する悩み

アニー様（2月25日）

独身で結婚経験のない42歳の女性研究者です。中年にさしかかっただけの自分の人生を考えることが多くなりました。毎日軽度のうつ状態です。医者からは身体的には悪いところはないといひます。

友人はいません。友人だと思った人も、私の勘違いで、友人でないことがわかりました。男性関係についても同様です。恋人と2年前に別れて以来、もう私の人生には男性は現れないとわかりました。子供もいません。今何とかしなければ、一生子供は持てません。ですがそんなことは起こりえませんが。これからの人生で楽しみに出来るものはありません。カウンセリングも役立ちませんでした。すべて一時的な解決に過ぎません。私や多くの独身者にとって、本当に欲しいのは愛です。ですが、私たちには愛は得られません。これから数十年どう乗り切れば良いのでしょうか？親がいるから毎朝起きるようなものですが。親が亡くなった後は、私は一人きりです。出来ることは何でもしてきました。社交的に振る舞い、友人も作りましたが、本当の友人ではありませんでした。私が死んだら、家族の写真や思い出の品は捨てられてしまうだけです。町で出会っても私の孤独には気づかないかもしれません。世間に対しては幸せの仮面をかぶっていますから。

アニー様（11月21日）

4年前に今住んでいる市に引っ越して来ました。息子が小さい時、他のお母さんたちと一緒に子供を遊ばせたこともありますが、友人は出来ませんでした。教会の活動もしたのですが、他の女性や夫婦と仲良くなれませんでした。新しい教会に通い始めました。人と知り合うには時間もかかるし、すぐに気の合う人が見つかるわけでもないのはわかります。最近気がついたのは、母親との関係が悪かったので女性に対してつい否定的な見方をしてしまうことです。ですがそんな見方を変えようとしています。出会った人とどうして友達になれないのかわかりません。私は専業主婦です。夫は職場で友人が出来ないといひます。息子は今のところ社交的なようですが、将来、両親と同じように友人が出来ない悩みを抱えて欲しくありません。

■ 容姿・外見

アニー様（1月8日）

32歳の娘は、いつも片思いでデートをしたことがありません。100ポンドと太っているからだと思います。体重のことは子どものときから、よく注意してきたのですがさっぱり効果がありません。娘は頭もよく明るく、かわいい顔立ちをしています。今仕事で親しくしている男性のことを好きなのですが、誘われたこともありません。男性に誘われないのは体重が原因だと娘は気がついていません。

アニー様 (5月28日)

39歳の小柄で胸の小さい女性です。最近まで、胸の小さいことが気になったことはありませんでした。ですが、最近は豊胸手術をして胸を大きくする人が多くて、豊かな胸でなければと思う男性が多いようです。私はとても無理です。豊胸手術を受けても医学的に悪影響はないのでしょうか？女性はいつでも外見で冷酷に判断されてきましたが、現代ほどひどい時代はないのではないのでしょうか？

■ 同性愛、異性装嗜好

アニー様 (1月4日)

20歳男性です。今も両親の家に住んでいます。12歳から女装してみたくて、母のものを、特に下着ですがいくつか“借りて”います。自分の女装嗜好で恥ずかしい思いもしています、母の下着を“借りている”のを父に数回見つかって、人のものに手を出さないように言われました。母も、自分の下着を僕の部屋で見つけたことがあります。どうしたらわかりません。下着を盗むことは困った恥ずかしいことだと思うのですが止めたくないのです。こっそり盗むのがイヤなので、いっそのこと母に下着を盗む現場を取り押さえられたら良いと思います。数年前は、女装のことは口が裂けても言えないと思っていましたが今は、母に打ち明け話し合う事が出来たら良いと思っています。ただ、母に理解してもらえなくて、打ち明けた後、母の目を正面きって見られなくなるのが恐ろしいのです。

アニー様 (9月19日)

小さな町に住む25歳の男性です。5年前素晴らしい男性と出会い交際を始めました。数年前から同居して幸せに過ごしています。困っているのは、僕たちは同棲中の恋人だと両親は知らないことです。前は、母とも祖母とも仲がよかったのですが、この秘密を持ってから距離を持つようになりました。他の町に住んでいて、そこではみんながゲイのカップルだと知って

います。前に彼をただの友人として両親に紹介しました。家族には嘘をつかないでいたいと思うのですが、彼のことを話す事はとてもできません。ゲイであることが恥ずかしいのではなく、家族に受け入れてもらえなかったらと思うと恐ろしいのです。

アニー様 (12月8日)

19歳の娘は昨年大学に入学しました。美しく頭のよい娘です。春休みに帰ってきたら、娘は男の格好をしていて、全く別人でした。レスビアンになったといいます。高校時代にはボーイフレンドもいて全くそんな気配はありませんでした。ですが、高校時代の友人にもレスビアンが数人いることがわかりました。レスビアンの全体的割合は低いというのにどうしてこんなにたくさんいるのでしょうか。大学で流行しているのでしょうか？仲間の圧力が影響しているのでしょうか。どうしてこれほど変わってしまったかわかりません。

■ 死、喪失感

アニー様 (1月20日)

死を迎える正しい心構えとはどのようなものなのでしょうか？最近、伯父が末期がんで半年の命といわれました。伯父は退院して自宅に戻り、パティオを増築したり、他にも色々活動をしてなくなりました。一方従弟は、重い心臓病であと1年ぐらいといわれました。彼も退院して自宅に帰り、起きている間中テレビを見ています。そうして2年たったのですが、まだ健在でソファーに寝てテレビを見ています。死に対してこのように態度が違うのは何故なのでしょう？

アニー様 (12月6日)

次々とつらいことが起きます。昨年父をなくしました。父は小さな手術で入院したのですが、退院前日に倒れて母に抱かれて亡くなりました。みんなつらかったのですが特に母には打撃でした。結婚35年でした。3ヵ月後に伯父、叔母と続けて亡くなりました。僕の唯一つの慰めは恋人でした。ですが彼も最近イラクで死にました。彼が僕の全てでした。僕の世界であり命でした。正気でいられたのも彼のおかげでした。彼の死は衝撃で、落ち込むことも出来ない程で、呆然としています。どうして良いかわかりません。母は癌です。この深い喪失感を母に話すわけにもいきません。

3-2-3 社会慣習・マナー

社会慣習、マナーに関する投書は多種多様であったが、1) 結婚式、結婚式の前に花嫁を祝って行われるブライダルシャワー、2) 誕生日祝、パーティー、3) 食事や社会生活上のマナー、4) 金銭問題、5) 社会生活一般、6) その他、に分類した。

食事や社会生活上のマナーに関する相談には、食事のマナー、礼状の書き方、葬儀の連絡の範囲、ハンカチの使用例、鼻のかみ方、挨拶の言葉などに関する質問が含まれる。社会一般と分類したものは実際的な社会生活上のヒントなどである。例えば、車を運転するときの前方車両との距離感の測り方、ジャンクメールの拒否の方法、飛行機の空調への不満、大学の学資支払い、高校卒業資格認定制度などに関する質問などであった。また、その他と分類したものは主に英語表現に関する質問であった。たとえば、「dinner は昼食か夕食か?」、「clean up real nice の意味は?」、「sour grape とドラマで言ってたけれど、何のこと?」といった質問である。

本調査では社会慣習に関する投書では表8で示すように、結婚式や結婚前に花嫁を祝って行われるブライダルシャワーに関するものが一番多く26件であった。結婚式は人生の一大事であり、結婚式やブライダルシャワーに関する慣習が大きな関心事であるのであろう。エチケットに関する各種の質問は25件、金銭問題が15件、誕生日に関する相談が9件であった。

表8 社会慣習など

結婚式、ブライダルシャワー	26
エチケット	25
金銭問題	15
誕生日祝い	9
生活一般	56
その他	37
計	168

社会慣習に関して、相談者は自分の知らない社会慣習を知りたい時、自分が社会常識だと思ふ事に反する経験を持った時や、周囲と意

見が異なる時に相談を寄せる。それに対して、どうするべきかという一般的な考えが回答で示された。そのなかで相談数の多かった結婚に関する投書例とそれに対する回答を紹介する。

アニー様（4月4日）

仕事関係の人の娘の結婚披露宴に出席しました。花嫁の母とは初対面です。披露宴は“カウボーイ式”ということで、よくわからなかったのですが、食べ物は持ち寄りでした。40ドルかけて半日かかりで2皿料理しました。ボーイフレンドをつれて出席しました。出来るだけ多くの結婚祝いが欲しいから、知らない人でもできるだけ多くの人を招待したといいました。披露宴に食べ物を持っていっても、贈り物も必要だったのでしょうか？

回答：結婚式が料理持ち寄りだと招待客には余計な負担がかかります。特にあまり親しくない場合には。ですが、カップルを祝うのが目的なので、それほど高価なものでもなくても良いので、贈り物は必要です。

アニー様（10月15日）

小さな地域に住んでいて、地域の女性は皆集まって色々なことを一緒にします。近所の娘が結婚することになって3月のブライダルシャワーに40人が出席しました。結婚式は2週間後です。ですが、ほとんど誰も結婚式には招待されていないのです。間違っていると思いませんか？

回答：間違っています。ペギー・ポストによれば、ブライダルシャワーに招待した人は結婚式にも招待すべきです。贈り物だけもらってしまおうという意図のように思えます。

アニー様（11月16日）

友人の結婚式に招待されました。妻は白いスーツを着たいといっています。花嫁花婿から他の人の目を奪わないために、結婚式で白い服を着て良いのは、花嫁花婿だけだと思います。考えが古いですか？

回答：昔は結婚式では招待客は白を着ないのが常識でしたが、今はOKです。花嫁と競合しあう白のフォーマルドレス以外は。クリーム色や白のスーツは大丈夫です。

結婚に関する相談では、高齢化社会で高齢になっての結婚も多いことがわかる質問もあった。「60歳過ぎて初婚の従妹が盛大な結婚式を

計画しているが、年齢的に見て内輪で簡単にするのが常識では？（4月13日）」という相談があり、それに対して「初婚なら、年齢に関係なく盛大に祝いたいと思うのも当然ではないか」との回答が与えられた。また、「80代で結婚するカップルにふさわしい結婚祝いは？（10月31日）」という質問に対しては、「80歳代なら何でも持っているだろうから、想像力を働かせて、物をあげるのではなく何かしてあげることも良い。また、額入りの写真、ワイン、商品券などでも良いのでは」と回答された。このように、社会の実態が変化するにしたがって新たな問題が生まれ、それに対応する基準や価値観、慣習を知ることが必要になるようだ。

3-2-4 児童の問題

児童の問題に関しては、1) しつけや子供のネット利用など教育上の問題、2) 男女交際など思春期の問題、3) 暴力、いじめ、不登校などの問題行動、4) 児童虐待、5) 養子、里子に分類した。表8で示すように、しつけや、教育、児童のインターネット使用に関する懸念や問題が26件と多かった。次いで、中学生や高校生の男女交際に関わる問題が21件で、学校や地域での子供のいじめ、暴力、不登校、反抗などの問題行動が12件であった。さらには、養子や里子に関する投書が4件であった。以下に、児童に関する投書の中から、しつけ・教育問題、思春期、問題行動についての相談例を紹介する。

表9 児童の問題

しつけ・教育・ネット	26
思春期・男女交際	21
問題行動・いじめ	12
児童虐待	7
養子・里子	4
計	70

■ しつけ・教育問題

アニー様（5月11日）

夫には9歳の双子の娘がいます。週末は私たちと過ごすのですが、夫は二人に徹底的に尽くすのです。頭にきますが、夫は楽しそうです。二人が漫画を見ているところに朝食をもって行きます。手伝いは何もさせません。二人はピザとホットドッグとマカロニチーズしか食べません。クリスマスに他の人の家に行っても、二人のためにマカロニチーズを作らなければなりませんでした。テーブルセットを手伝ってとかおもちゃ片付けてと私が言うと夫は嫌な顔をします。お客さんなんだから何もしなくて良いというのです。甘やかし過ぎだと思えます。

アニー様 (7月1日)

二人小さい子連れて再婚しましたが、夫には成人した娘がいます。娘には幼い子供たちがいます。問題は、娘の子供たちは家に遊びに来たとき手がつけられないほど行儀が悪いのです。それなのに、夫も娘も何も言わないのです。娘は私を嫌っています。彼女の子供たちがものを破いたり癩癩を起こし喚き叫んだときに止めようとしたら、私に怒りました。時々娘は私に腹を立てて、遊びに来るときに子供たちを連れてこないのですが、そうすると夫が気分を害します。私は子供が行儀悪く振舞うのは我慢できないのですが、夫は娘自身の問題だから、口を出したくないと言います。

アニー様 (8月11日)

来年再婚予定です。40代で、どちらも10代の子が二人います。結婚後は、部屋数が多いので彼の家に住みます。問題は彼の子供たちがだらしないことです。片付けないので家の中は竜巻に襲われた直後のようです。ひどくなったら誰かが片付けるだろうと思っていたのですが、誰も片付けません。彼の家状態を見て具合が悪くなることがあります。結婚後は、このようなだらしない状態は我慢できません。

■ 思春期の問題

アニー様 (7月9日)

13歳の女の子です。母はかわいいといってくれるのですが、自分ではそう思いません。ひどくはないのですが、年齢にしては太っています。ボーイフレンドが欲しいのです。もう出来ても良いと思うのですが、ボーイフレンドが出来たことは一度もありません。友達も、人柄も良いし、面白いといってくれます。でも、男の子とは長く一緒にいたことがないので私のよさをわかってもらえません。ボーイフレンドが出来ないので、インターネッ

トで男の子と話すのが好きです。インターネットで知り合うと怖いと聞きます。悪いことだと思います。ですがどうしてもボーイフレンドが欲しいのです。

アニー様 (1月18日)

15歳です。最近、初めてボーイフレンドが出来ました。何回かデートしました、昨日の晩、彼の家で二人きりでいたときに、キスしました(初めてではありません)。彼が私の体を手で触ってきました。何をしているのと聞くと、皆がしていることをしてるといいます。彼が何をしようとしているのかわかりました。このごろ、私の学校では、誰でも当たり前のようにセックスしています。私の親友は妊娠しました。私はずっと真面目な学生でした。この年でセックスをして良いとは思いません。ですが、以前他の女の子がセックスを拒否した時に、皆にからかわれ馬鹿にされたのをみています。同じような目にあいたくありません。昨日の夜は、途中でやめてもらいました。次のデートが明日です。どうしたら良いでしょうか？

■ いじめ・問題行動

アニー様 (12月10日)

15歳の女性です。2年前からリストカットをしています。深く切りすぎて、血があふれることがあり恐ろしくなります。泣きたかったり、痛みを感じたかったり、血を見たかったりするためだけに自分を傷つけることもあります。鏡で全身に自分でつけた傷跡があるのを見ると恥ずかしいのと同時に誇らしい気持ちになるのです。母と一緒にテレビを見てみると、リストカットをする少女が出てきました。母は「いやだわ。どうして自分の体を傷つけたり出来るのかしら」と言いました。それを聞いて傷跡を見られなくて毛布で腕を隠しました。リストカットのことは親友4人だけに話しました。そのうち3人は同じようにリストカットしています。ですが一人は、「やめないと、死んでしまうわよ」と言いました。自分を傷つけるたびに死んでしまうのではないかと恐ろしいです。家族も、友人も、神様も、自分自身も裏切っていると思います。

アニー様 (10月31日)

高校2年生の女子です。中学2年の時から、ある男の子が私のことを好きだといって、誘ってきます。断りました。最初は彼のことは気にもならなかったのですが、このごろは恐ろしくなってきました。近くにいるとじっと見

つめます。愛しているとラブレターをくれ、自分はストーカーではないと
いいます。ですが私に付きまとうのです。私の友達に、私の成績や、履修
課目など何でも聞くのです。彼は私のことばかり話していると友達はい
います。何時撮影されたかわからないのですが、いつも私の写真を持って
いると、昨年、信頼できる友人が言っていました。もう手紙も欲しくないし、
付きまとわないで話しかけないでとはっきり言いました。ですが少し怖く
なっています。この3年間、自宅に帰っても彼が見ているのではないかと
思うとブラインドを上げることも出来ません。彼のいない学校への転校も
考えています。

以上、2006年の人生相談を性別や立場、問題内容などに分類して
示し、いくつかの相談例と回答を紹介した。掲載された相談には人間
関係に関するものが最も多く、中でも夫婦、親子、兄弟といった家族
内での人間関係に関する相談が多くみられた。アメリカ社会では離
婚、再婚、再離婚、再々婚と結婚の形態が多様であるため家族の形態
が複雑になり、それに伴って子供の養育、拡大家族との関係も複雑に
なり様々な悩みとなることが多いようであった。また、個人の問題で
は身体的、精神的病気、依存症に関する投書が多くあった。特に依存
症に関しては大きな社会問題でもあり、投書に対するほかの読者から
の反応も多く掲載された。さらに、児童に関する相談ではしつけや教
育問題、インターネットの使用に関して、また、思春期の男女交際、
心の不安定感などが、相談内容であった。社会慣習やマナーに関する
投書は多岐にわたっていたが、結婚に関する質問が多く見られた。こ
のような掲載投書の傾向から、人生相談の読者がこのような問題に関
心を持っていることが推察できるのではないだろうか。関心を持つ
のはその問題が自分の身近な問題であり、自分が現在抱える問題や、経
験した問題、将来経験するかもしれないと思っている問題だからでは
ないだろうか。そしてこの人生相談の読者が約6千万人といわれるこ
とから、人生相談に掲載される問題は、アメリカ人が身近だと考える
問題であると推測できるのではないだろうか。人生相談の相談傾向か
ら、現在のアメリカ社会の一断面を見ることが出来たのではないだろ

うか。

それでは、相談に対してはどのような回答が与えられるのであろうか。その回答から伺われることは何であろうか。次には、人生相談の回答の特徴を探り、その特徴からどのようなことが言えるかをみていく。

4. 人生相談の回答

人生相談コラムへの投書者は、自分の抱える問題を語り、回答者に問題解決への助言を求める。回答者は投書の中から一般の読者の関心などを考慮して掲載するものを選択する。Ann Landersは「読者を引きつける問題以外は掲載したくない。だから、掲載する投書の一つを見つけるまで500通読むこともある。」と娘への手紙で語った[Landers 2003, p354]。掲載する相談投書を選択した後に、相談に回答するために調査を行うが、例えば、「Dear Abby」では投書の開封専任4名、回答6名、調査担当1名の陣容であった。[前出, タイム誌] 調査結果に基づき、専門家の助言を取り入れ、回答が書かれ、紙面に掲載される。その回答は、投書者だけでなく一般読者の関心を考慮し、一般読者にも参考になるものである事を考慮して書かれる。それゆえ回答は回答者からの相談者と一般読者へのメッセージであるといえよう。その回答からはどのようなことが読み取れたのであろうか。

本調査の「Annie's Mailbox」の回答には、2つの特徴があった。一つにはNPO機関が紹介される回数、もう一つはカウンセリングが助言される回数が多かったことである。NPO機関の紹介は2日に1度、カウンセリングの助言は3日に1度の頻度であった。最初にNPO機関に関して、次いでカウンセリングについてみていく。

4-1 NPO 機関

2006年には、本調査対象のコラムでは176のNPO機関などが紹介

されたが、これはおよそ2日に1回の頻度であった。いくつかの機関は複数回紹介されているため、紹介された機関数は161であった。表10で示すように、多様な問題に対してNPO機関が紹介された。本調査では人生相談を相談内容によって、人間関係、個人の問題、児童の

表10 人生相談で紹介されたNPOなどの機関

家族 (49)	
家庭内暴力	11
高齢者医療・介護	11
高齢者孤独	5
児童虐待	5
主婦支援	5
児童養育・教育	4
義理の家族	3
夫婦間不和	3
出生の情報	2
個人の問題 病気・医療 (77)	
薬物・鎮静剤依存	12
アルコール依存	10
精神病/うつ状態	12
医療保険	4
強迫神経症	4
慢性痛	4
死の恐怖	2
禁煙	2
性病	2
アレルギー	2
癌	2
関節炎	2
オストミー	2
その他	17
社会一般の問題 (35)	
軍・イラク関連	5
動物愛護	4
ゲイ・異性装嗜好	4
借金	3
運転	3
セクハラ	2
犯罪被害	2
その他	12
計	161

問題、社会慣習の4つに分類したが、2006年に紹介されたNPO機関に関しては、その4種では適切に分類できるものではなかった。そこで、家族の問題、個人の問題、社会一般という3種類に分類した。全米慈善統計センター(NCCS)¹¹はNPOを1. 芸術・文化・人文科学、2. 教育、3. 環境・生物関係、4. 健康・医療、5. ヒューマンサービス(社会福祉など)、6. 国際活動、7. 公共的社会的利益のための活動、8. 宗教、9. その他、の9つの分野に分けている。その分類を用いると家族の問題には児童、家族、高齢者への支援を行う教育と社会福祉分野で、家庭内暴力、老人介護、主婦の就業支援、義理の家族との関係改善などの支援を行うNPO機関が、また、児童に関しては、養育・教育、児童虐待、問題行動などに関するNPO機関が紹介された。また、個人の問題には、表10で示したように各種の健康医療関係のNPO機関が紹介された。表10で示した以外にも心臓病、パーキンソン病、脳性まひ、甲状腺障害、夜尿症などに関する機関が紹介された。社会一般の問題には、表10で示した以外には人種差別、大学生の人権、カルト宗教、ボランティア、手話通訳など多様個別の問題に応じて多様な分野のNPOが紹介された。

相談コラムの一つである医療相談の目的は、相談者の抱える医学的問題に対して正確で詳細な解答を与えることである[Molnar 1999]。その医学情報の正確さを分析するために新聞紙上の医療相談コラム50を分析し、Molnarは約20%に必要な情報が欠如していた[p384]と述べた。その理由として彼は、相談コラムは長さが決められていて、正確で適正な情報を簡潔に提供することが困難であったからだと分析した。それを受けてEntwistle[1999]は、詳細な情報がスペースの関係で提供できない場合には他の情報源である文献、ウェブサイト、支援団体、情報提供電話番号などを紹介するべきであり、スペースの限られた相談コラムに外部の情報源を加えることで、相談者は必要に応じて十分な情報を入手できると述べた[p388]。

人生相談コラムにおいても、同様にコラムの長さの制限のために、

相談に対して詳細に回答することが出来ない場合があるだろう。本調査対象の人生相談コラムでも NPO 機関が紹介されたのは情報を補完する目的でもあろう。NPO 機関とは規模の大小を問わず、法人化された税制上の優遇措置を受けた市民の自主的な組織で、主務官庁を持たず、社会福祉、医療、宗教、学校、社団、財団などの法人を包括した多様な事業分野で自由な活動をしている [柏木, 1996] 機関の総称である。これらの団体は渡辺 [1992] がいうように、経済の高度化、社会の複雑化に伴って政府セクターでは解決できない問題が多発する。その問題解決のために社会貢献活動を通じて社会にいわば準公共財を提供しているものである。

2004 年の NCCS 統計では NPO の数は 1,397,263 団体と過去最高の数になっている。NPO には会員奉仕団体である商工会議所、労働組合、政党などと、一般の人を対象とする公共奉仕団体がある [今井 1998] が、公共奉仕団体の数は NCCS の統計 (2004 年) では 822,817 であった。人生相談コラムの回答で紹介される NPO 機関は、主として公共奉仕団体であった。

本調査対象の人生相談コラムでは、表 7 で示したように病気に関する相談が 54 件であったが、それに対して、それぞれの病気の支援、情報提供 NPO 機関が紹介された。一方、依存症の相談 39 件に対して依存症一般、またそれぞれの依存症に関する支援機関が紹介された。依存性のある薬物としてアメリカ保健人間局の研究機関である薬物乱用研究所があげるのは LSD などの違法ドラッグに加えて、アルコール、タバコ、処方薬である鎮痛剤など 13 種である¹²。これらの依存症は深刻な被害を本人のみならず周囲に及ぼすことがあり、社会一般に及ぼす悪影響が大きい。その克服には正しい治療と長い時間が必要であり、本人の意思と努力だけでなく周囲の人の理解と協力が欠かせない。

本調査における依存症に関する 39 件の相談の内訳は、薬物依存 16 件 (マリファナなど違法薬物依存 11 件、処方薬である鎮痛剤依存 5 件)、アルコール依存 14 件、喫煙 4 件、ポルノ依存 2 件、それに加え

てゲーム依存、ギャンブル依存、複数の薬物依存が各1件であった。以下に依存症のなかから、薬物依存に関しての相談例と紹介されたNPO機関を記す。最初の2例からは処方薬である鎮痛剤依存が誰にでも起こりえるものであることが分かる。ある主婦はこう記す。

「9ヶ月前ですが手術の後、鎮痛剤を投与されました。鎮痛剤を服用すると痛みを感じないだけでなく、身体に活力がみなぎりました。完治してからも、元気になるので飲み続けました。家族が驚くほど、家事がすすみました。鎮痛剤がなくなった後、頭痛がし、脚が痛くて起きられなくなりました。禁断症状だと思いましたが、夫にはいえませんでした。どうにか起き上がり、戸棚にたまたま残っていた鎮痛剤を飲むと、急に身体中にエネルギーがあふれました。それからと言うもの、病気のふりをして医者には鎮痛剤を処方してもらっています。どうしても自分でコントロール出来ない状態です。でも、家族や友人には打ち明けられません。きっとみんなショックを受けるでしょうから（1月16日）。」回答：鎮痛剤の中には依存性が強いものがあります。自分自身では薬物依存がコントロール出来ず、支援が必要とわかったことは良かったと思います。Narcotics Anonymous か Pills Anonymous に連絡しましょう。がんばって。

また、尊敬される立場の職という30代の方は、「交通事故で首と腰を痛めましたが手術は出来ないといわれ、強い鎮痛剤を服用しています。処方される量では鎮痛剤が効かなくなり、服用量がどんどん増えました。緊急病院や普段は行かない薬局に行って多量に薬を手に入れます。恥ずかしいのですが、友人の薬棚から盗んだこともあります。こんなことは止めなければいけないと思うのですが、鎮痛剤を飲まないで普通の生活がおくれません。小さな町に住んでいるので誰かに知られたら、もうおしまいです（10月13日）。」回答：鎮痛剤が効かなくなってきたことを医者にご相談し、鎮痛治療の専門家を紹介してもらいましょう。また、匿名で支援を受けたいときにはThe National Drug Abuse Crisis Line, The National Drug Information Treatment

and Referral Hotline, The American Academy of Pain Management, The American Pain Foundation などに連絡を取りましょう。自分に問題があると認識したのが、問題解決の良い出発点です。

さらには、薬物摂取がアメリカの若者文化として、長く浸透してきた事をうかがわせる例もある。「結婚15年。夫の書斎を掃除していてドラッグを見つけました。夫は事業も成功していて、教会の信者として主要な役職にもついています。夫を問い詰めると、高校時代からずっとドラッグを使っているといいます。やめると約束したのですが、最近ガレージの道具箱にドラッグが入っているを見つけました(5月30日)。」この相談の妻には、警察に薬物所持が知れたら、夫は留置され、子供二人は児童相談所に収容され、さらには同居の妻にも薬物所持の罪が適用される可能性があることが伝えられた。そして、薬物依存者の家族への支援を行う Nar-Anon が紹介された。

次の例は、マリファナを断ち切ろうと努力中の女性からの投書である。「52歳で、私の年代では多くの人がそうでしょうが、高校時代から時々マリファナを吸っていました。マリファナはアルコールや他のドラッグよりも安全だと思っていました。あるとき病気になり痛み止めとして吸っているうちに、病気が治っても毎日吸うようになってしまいました。中毒状態でした。物事を判断できず、いつも心配な気がして、鬱になりました。集中力も、記憶力もなくなり、新しいことは頭に入りません。家は散らかり放題で、身だしなみもだらしくなりましたが、気にならないのです。ですが、友人と家族に話し、Marijuana Anonymous の支援を受けて2ヶ月間吸っていません。人生が明るくなってきました(11月4日)。」このように、この女性は他のマリファナ依存者の為に支援NPO機関に関する情報を提供した。

このように、病気や依存症以外などの相談を中心に、人生相談の回答では情報や支援が受けられるNPO機関が紹介された。これは人生相談の回答のスペースが限られているので、支援を求める相談に対

しては、詳細な情報を提供するため外部機関を紹介することが有効であるということが一因として挙げられよう。しかし同時に、人生相談コラムで読者に紹介できるような信頼性の高いNPO機関が存在すること、NPOの支援を受けることで問題解決を図ることができると考えられていることがわかる。NPOなどの支援機関が情報と支援を提供できる力を持っていると社会が認識していることでもあろう。尚、2006年に紹介された全機関名とその連絡先に関しては、末尾の資料1を参照されたい。

次には、回答でカウンセリングが紹介された事例について述べたい。最初にアメリカにおけるカウンセリングを概観し、本調査の人生相談の回答でのカウンセリングが助言されたケースについて述べる。

4-2 カウンセリング

本調査の人生相談の回答で、カウンセリングが勧められたのは130回であった。例えば4月は5件の相談に対して、9月には16件に対してカウンセリングを受けることを助言している。これは月平均にして10件であり、3日に1回の割合でカウンセリングが回答の中で勧められている。人間関係に関する相談の約30%に対してカウンセリングを受けることが進言されており、表11で示すようにカウンセリングが勧められた130件のうち約6割にあたる86件が夫婦、親子といった家族間の問題に関してであった。中でも夫婦間の問題に関する投書153件のうち約46%にあたる70件にカウンセリングが勧められた。

個人の抱える問題に関しては、容姿や身体に関する劣等感や、内気で友人ができないといった孤独感、神経症や不安感を持つ人に対してカウンセリングが勧められた。また、児童の問題に関しては、学校や家庭でのいじめの問題、思春期の問題行動、うつ病的傾向などに関する児童からの相談に対して、親や信頼できる大人、教師に相談してカウンセリングを受けることが進言された。

表11 カウンセリングを助言された問題

夫婦（同棲）などカップル間の問題	70 件
個人の劣等感、性格、神経症	18 件
親子間の問題	16 件
児童に関する問題	9 件
死による喪失感、死への恐怖感	5 件
セクハラ、レイプ被害	4 件
職業選択、就職	3 件
借金問題	2 件
その他	3 件
合計	130 件

アメリカにおいてカウンセリングは、高度な教育、訓練を受けた専門家が行うものである。アメリカの多くの州においてカウンセラーと認定されるには修士号以上の学位と3千時間以上の実習が必要とされている。カウンセリングを提供する職業には、資格認定に要する条件の厳しさ順に、心理分析医（179,000人）、カウンセラー（600,000人）、ソーシャルワーカー（562,000人）などがあり（表12参照）、主に教育機関、医療関係機関に勤務している [U.S. Department of Labor Bureau of Labor Statistics, 2004]。カウンセリングを提供するこれらの専門家のうち一般の人々の問題の支援に当たることの多いのはカウンセラーである。

表13で示すように、カウンセラーの3分の1は学校など教育機関で、教育や学校生活、職業決定などに関する問題に関わる。次は医療機関でリハビリテーション業務に従事する者、その次は順に精神医療、薬物中毒、結婚家庭生活などの問題解決を支援するカウンセラーである。

表12 アメリカに於いてカウンセリングを提供する職業

カウンセラー	600,000
ソーシャルワーカー	562,000
心理学者	179,000
合計	1,341,000

アメリカ労働省資料（2004）から筆者作成

表13 カウンセラーの勤務機関・職種別人数（人）

教育、職業、学校	248,000
リハビリテーション	131,000
精神医療	96,000
薬物中毒、行動障害	76,000
結婚・家族	24,000
その他	25,000
合計	600,000

(アメリカ労働省 2004年)

カウンセリングには大きく分けて2つのタイプがあるといわれる。一つは専門家や社会的に認知度の高い人物が、問題に対して解決案を示し、それに従うように助言する指示的なカウンセリングである。もう一つは、カウンセリングを受けるクライアントとカウンセラーは同等の立場で、カウンセラーはクライアント自身が解決策を見つける支援をする非指示的な（クライアント中心）カウンセリングである。アメリカ労働省が「個人的、家族間、教育上、精神衛生上、職業決定に関する問題解決と意思決定を支援する職業である。」¹³とカウンセラーを規定しているように、アメリカにおけるカウンセリングの基本的姿勢は、非指示的なカウンセリングである。

非指示的カウンセリングの基礎的理論を確立したカール・ロジャーズ¹⁴は、クライアントが自己を表現し、自己を理解することが問題解決への道であり、カウンセラーはクライアントの話を明確化し、言い換え、要約し、クライアント自身による問題解決を支援することが責務であるとした。人生相談においても、クライアントである相談者自身による問題解決をすすめるために様々な選択肢を提示して、相談者にその中から選択するよう提案することが多い。又、問題解決にカウンセリングが勧められる場合、カウンセリングを受ける目的は以下のように回答では説明される。

「自分が夫を疲れさせ、結婚を不幸にしていることに気づくため（1月24日）」「問題への最善の対処法を決めるため（1月30日）」、「状

況を理解するために（5月4日）」、「自分の行動パターンを理解するため（5月17日）」、「人生に何を求めるか、それをどう手に入れるか決めるため（5月28日）」、「ひどい状態の結婚を本当に自分は継続したいと思っているのか、自分を理解する為（6月15日）」、「不幸だから、そして自分にとって最善策は何かを決めるため（9月1日）」、「母親の言動に過敏に反応してしまう原因を理解するため（9月17日）」、「不幸の原因を理解するため（9月23日）」、「相手の行動を許すことを学ぶため（8月1日）」

このように、カウンセリングを受ける目的は自分が自分を理解し、自分のとる道を決断し、のぞましい行動をとる方法を学ぶことであることが繰り返し語られる。しかし、カウンセリングはいつでも有効に機能するものではなく、読者からはカウンセリングに否定的な意見が寄せられた。例えば、カウンセリングは費用がかかる、カウンセラーの助言が納得できない、過去に受けたカウンセリングが有効でなかった、自分に合うカウンセラーと出会うまで時間がかかった、といった意見である。カウンセリングの費用が高いという投書に対しては、カウンセリングを低価格でまたは無料で提供する大学の心理学部などの機関や公共の施設やNPO機関が紹介された（資料1参照）。

次にカウンセラーの助言が納得いかないという相談とそれに対する回答を示す。

「50歳で、母は83歳です。母とは全く気が合いません。私のやること、言うこと、すべて母は気に入らないのです。いつも口論になりいらいます。その理由を理解したくて、カウンセリングを受けました。関係を改善するためには、妥協するようにといわれました。妥協するのはかまいません。いくらでも妥協します。ですが、母は何もしなくて良いのでしょうか？ 母の年令では変わるのが難しい事はわかりますが、私だけが妥協するとしたら、母の態度は正しく私が間違っていたと、母は思いこむのではないのでしょうか？（11月3日）」

それに対して回答では、「変えられるのは自分の行動だけです。他人の行動は変えられません。カウンセラーは、母親に対して貴女が柔

軟な態度で接したら、あなた自身が楽になると思ったのでしょうか。言われたとおりにやってみてうまく行かなかったら、もう一度カウンセラー（あるいは別のカウンセラー）に行って、他の手を打ってみましょう。」と勧められた。このように回答では、カウンセリングの目的は相談者自身の行動を変えること、相談者自身の気持ち楽になることであると説明し、一つの対応方法がうまく行かなかったら別の方法を求めてカウンセラーにかかる。一人のカウンセラーが自分に合わなかったら、別のカウンセラーにかかるようにと言う。自分にあったカウンセラーと出会うのは困難であることは「5人カウンセラーにかかったがどれも効果がなかった（4月14日）。」という投書からもうかがえたが、回答ではそのような場合にも「5人も6人もカウンセラーを経験して、やっと納得できる人が見つかる場合がある。」と、あきらめずにカウンセリングを受け続けることが勧められている。

以上、本調査対象の人生相談コラムの回答をみてきた。回答では、NPO機関が紹介されることが多かった。NPO機関が多く紹介されたことは、第1には人生相談コラムのスペースを補い十分な情報を与えるためであろう。第2にはNPO機関の数が多く、充実した信頼にたる機関があるのであるであろう。第3には、相談者や一般読者の問題解決を支援する場としてNPO機関が機能しているからではないだろうか。

また、回答ではカウンセリングが助言されることが多かった。特に人間関係の問題解決のためにはカウンセリングが多く助言された。又、カウンセリングが有効ではなかったという投書に対しても、あきらめずに問題解決までカウンセリングを受けることが勧められた。そのことから、第1には、回答者がカウンセリングの有効性を信じていること、第2にはカウンセリングで勧められることを読者も納得するということが推察できる。第3には、カウンセリングが人生の様々な問題を解決するために、一般の人に普通に利用される身近なものであるといえるのではないだろうか。

このように本調査では、人生相談の回答において相談者自身が問題

を解決するための支援が与えられていた。安部〔2004〕の研究とは異なり、人生相談の回答者は権威者として問題に対する解答を与えるのではなく、相談者と対等な立場であり、相談者自身が問題を解決すべきであるという姿勢が示された。次には、人生相談コラムを継続的に見たときに浮かぶ特徴について述べその例を示す。

4-3 議論の場としての人生相談コラム

本調査では、相談と回答、他の読者からの反応を継続的にみていった。その結果、一年間のコラムの特徴として次のような二つの点が浮かび上がった。一つは、継続的に取り上げられ、読者による議論がおこなわれた問題があったこと、もう一つは2006年の世相を反映するような話題が取り上げられたことであった。最初に時代を反映する話題に関して投書が掲載された例を取り上げる。2006年という時代を写す話題としては、子供の命名、高齢者医療制度改正、保険無加入者の問題、外国人労働者への人種差別問題、養子や里親、高齢者医療制度改正などがあり、これらの話題のいくつかに関する投書や読者の反応が掲載された。そのなかで、次には子供の名前をめぐる投書を掲載順に紹介する。

6月3日に「小児科で働いているのですが、最近の子供の名前にはぎょっとさせられます。16歳のシングルマザーの娘の名前はプリティですよ。名前は子供のときだけでなく、大人になっても使うんですよ。あまりばかばかしい名前だと周りから信用されなくて成功しないんじゃないかしら。普通の名前の子供でも、生きていくのが大変な時代だと思うわ。」という投書があり、それに対して、「ここ数年で変わった名前が増えているから、どんな名前でもそう変に思われたいのではないのでしょうか。グウィネス・パルトワの子供の名はアップルで、ジェイソン・リーの息子はパイロットインスペクターと言います。目立たせようとしてつけるのです。子供が愛されて特別な存在だと感じられたら名前は問題ではないのでは。いやならいつでも変えられま

す。」との回答が示された。

それに対して小学校の教師は「自分の生徒にもナポレオンやウルフガングがいて、クラスで名前を呼ばれるのが嫌で、答えがわかってもし挙手しない場合があった。生徒同士のからかいの種になることは避けるほうが良い。」そして、「つけようと思っている名前で知らない人に自己紹介する実験をしてみて、その反応を見ると良い（8月8日）。」と提案する。

ある女性は「変な名前付けると変な人間になるけど、それで良いなら好きにすれば！（9月1日）」、さらにデイケアで働く母親は「子供の大学同窓生名簿を見ると最近生まれた子供の名前は変わったものがずらり。変った名前もどうかと思うけど、どう読んで良いかわからないスペリングも困るわ。たとえば、Jenuhfur、Jairohmeeや Aalysssieaなどね（10月1日）。」それに対しては、「名前でも、スペリングでも変わったものが増えているということは、多様なものが受け入れられるようになるということで、悪いことではないわね。」との回答。次いで、スクールカウンセラーからは変った名前に対して肯定的な見方が示された（10月7日）。「変った名前は、強い自己意識につながり、人間として強くなる傾向がある。大人になったら、話しの種にもなるから悪いことではない。」

このように子供の名前に関しては、計10回にわたり、読者から賛否両論や体験談が示され、一方、回答では変った名前への肯定的な見方が一貫して示された。名前は子供への親の愛情表現であり、変った名前をつける人が増えると変った名前への寛容性が増す。多様な名前が受け入れられることで、様々な面で、多様性を受け入れる社会の実現につながるのではないかと言うのだ。

もう一つの特徴は、一つの相談や回答に対して他の読者からの賛否両論、関連した問題、経験談などが掲載され、一つの問題に関して継

続的に多数の投書者、読者を巻き込んだ議論が行われたことであった。人生相談コラムは一般の市民にとって「多くの人々が利用することが出来る議論の場であり、文化的に主要である」[Gudelunas, 2005]といわれるように、一般の読者がメディアを通じてこのような意見のぶつかり合いを読み、そこから学び、自分の経験と照らし合わせて考えることで、新しい社会慣習や価値観が生まれる場であったのではないだろうか。

本調査対象のコラムへの相談と他の読者からの反応で掲載回数が多かったのは、薬物・アルコール・鎮痛剤などの依存症に関する39件、児童虐待に関する19件、人種問題に関する14件であった。継続して人生相談で取り上げられ、多面的な議論が展開された依存症の問題を次にみていく。依存症のひとつである薬物依存に関してはすでにNPO機関の項で取り上げた。ここではアルコール依存の問題を取り上げる。最初にアルコール依存問題を概観し、この問題に関して人生相談コラムで取り上げられた投書を掲載順にみていく。

アメリカアルコール乱用・依存症局の統計(2001-2002)¹⁵ではDSM-IV¹⁶で規定されるアルコール乱用者¹⁷の数は推定で人口の4.65%にあたる966万8千人であり、そのうち18歳から29歳の若年層では人口の6.95%に当たる315万1千人であった。それに加えて、乱用よりも深刻なアルコール依存の数は推定で人口の3.81%にあたる791万1千人であり、そのうち18歳から29歳では人口の9.24%の419万人であった。アルコール乱用と依存を加えると、人口の8.46%がアルコール関連の問題を抱えているとされた。このようにアルコール乱用、依存者は数が多く、アルコール問題による社会的損失や、医療負担が大きいので、アメリカ社会では深刻な問題であり、一般の人々の関心も高い。このような社会状況において、人生相談コラムはアルコール依存者自身またはアルコール依存者の家族や、一般の読者に対してアルコールの害や依存症の症状、治療法などに関して情報を与え、教育する機能を果たしていることが、人生相談の投書や他の読者

からの反応からうかがわれる。アルコール依存に関する投書と他の読者からの反応を以下に示す。

アルコール依存者がいると家族は大変な苦しみを抱えるようである。アルコール依存の父親から電話で暴言を浴びせられる娘（2月26日）や結婚32年の夫が毎晩また週末毎に酔いつぶれるのでまともな会話もなく、離婚を検討中（2月28日）、結婚20年の夫が毎晩酔って暴言を吐く、離婚したいが経済的に不安、夫の死を願う（4月21日）と、家族のアルコール依存で家族が苦しむ姿が紹介される。次いで母親から、家族も仕事も持っている娘がアルコール依存ではないかとの心配（4月26日）が寄せられ、断酒を支援するNPOである匿名断酒会（AA）によるアルコール依存を診断する12の基準が紹介された。

以下の4つ以上に該当するときは、アルコール依存であるとされる。

1. 1週间断酒を決意したが、数日でのみ始めた。
2. 自分の飲酒について他人からとやかく言われたくない。
3. 酔っ払わないように、飲む酒の種類を途中で変えたことがある。
4. この一年間で、お酒に関して心を改めようと思ったことがある。
5. 飲酒しても問題を起こさない人がうらやましい。
6. この一年間で飲酒がらみの問題を起こしたことがある。
7. 飲酒が原因で家庭に問題が起きた。
8. パーティーで出される酒の量が十分でないので追加をもらったことがある。
9. いつでも酒は止められると思うが、思いがけない時に酔っ払っていることがある。
10. 飲酒が原因で、会社や学校を休んだことがある。
11. 酔ってからのことがわからなくなってしまうことがある。
12. 飲酒をしなければもっとましな人生がおくれると感じることがある。

る。

このようにアルコール依存の診断基準を掲載することで、投書者に直接答えると同時に一般の読者にもアルコール依存診断のための情報を提供している。前述の夫の死を願う主婦（4月21日）への反応として、アルコール依存から回復できた主婦から、自分の家族の支援に感謝する投書が寄せられた。主婦はアルコール依存症の家族を持つ人に、見捨てないで回復を支援するよう訴えた（6月11日）。次いで、大学生から、アルコール依存になるのは、「本人の習慣が原因なのか、それとも遺伝子の影響か（6月25日）」という質問が寄せられ、「遺伝も習慣も両方関係している。本人だけの責任ではないので依存症になっても恥じることは無い。」と回答された。

次にはアルコール依存による悲劇の経験が語られた。「才能にあふれる息子が、飲酒が原因で死にました。どんなに頼んでも脅かしても、お酒の被害が及ぶのは自分だけだからと言って、飲酒を止めませんでした。飲酒は本人も周りの人間をもじわじわと苦しめます。息子が死んで、家族も、友人も近所の人にもショックを受けて悲しんでいます。今、飲酒をされている方、どうか周囲の人間のことも考えてください。息子のようになる前に治療を受けてください。（8月10日）」と母親は訴えた。その投書に反応して9月27日には、「あの投書を読んで、声を上げてないてしまいました。私もお酒を飲みすぎです。ちゃんとした仕事もあり、妻と娘もいます。つらいことを紛らわすためにお酒を飲むのですが、心の奥ではこんな事をしてはいつか死ぬと分かっているのです。投書の母親に誓ってすぐに断酒します。ありがとうございます。」と、断酒を誓う男性がいた。そして、他にも断酒を誓う投書があったことが回答者によって追記された。断酒を誓った男性に対して、元依存症の男性は、一人で断酒することは困難だから支援グループに入るようにと自分の経験から助言した（11月17日）。この断酒グループに関する投書を読んだ主婦が、自宅で誰にも知られず、独力で克服したい（11月28日）と希望し、それに対してはオンライ

ンの断酒支援サイトが紹介された。次いで、読者から依存症者の家族支援組織の紹介があり（12月11日）、アルコール依存症から子供を救うには、一度突き放す強い姿勢が必要との投書があり（12月20日）、子供に自立を促して断酒に成功させたという家族の経験談が寄せられた（12月24日）。

この間にも、母親夫婦は酒癖が悪く近所で嫌われ者になっているという娘（9月12日）、また、小学生娘の友人の父親がアルコール依存なので遊びに行かせないという母（10月4日）、週4-5回夫が仕事帰り外で飲んでから帰宅するので離婚を考慮という妻（10月26日）と、アルコールが関わる様々な問題が掲載された。

アルコール乱用、依存に関してはこのように、乱用者、依存者を抱えた親や家族など周囲の人間がどれほど苦悩するかが紹介され、次いで、診断基準が説明され、アルコール依存の悲劇、アルコール依存から立ち直った例、依存症の家族を立ち直らせた体験談、依存者と家族支援機関が紹介された。このように一年間で様々な局面からの問題点、回復するための対策などを読者の相談、回答、他の読者の反応と、継続的に紹介することで、人生相談コラム上で一般読者がアルコール依存に関して、共感しながら学習できる場を提供していたといえよう。そのことで、アルコール依存の拡散を抑える効果があったであろう。人生相談コラムの多面的な議論が、アルコール依存症者やその家族、又アルコール依存症予備軍には適切な情報と支援を与えたのではないだろうか。

さらには、人生相談コラムが過渡期にある社会慣習の変化に影響を与えるのではないかと思われる例もあった。その一つは誕生パーティーに関するものである。次には誕生パーティーに関して2006年10月と12月に掲載された投書と回答と他の読者の反応を紹介する。

アニー様（10月18日）

「親戚の誕生パーティーがレストランであり、プレゼントをもって出席しました。ですが、自分の食事代は各自が支払われました。招待されたのに支払うのは納得いきません。」（回答）「誕生パーティーは普通は招待した側が支払います。ですが、最近ではエチケットを知らない人がいて招待客にも払わせて良いと思っているようです。」

その投書と回答に対して別の読者からは次の投書があった。

アニー様（11月30日）「最近では、招待客も自分の分を払うのが普通です。私の誕生パーティーは夫が全額支払いましたが、招待された友人達は夫にお金を渡そうとしました。」回答「確かにその傾向のようですね。ですが、それが普通になって来ているからといって賛成できません。やっぱり間違っています。」

これらのやり取りは、誕生パーティーでは招待客も、自分の食事した分を支払うという新しい慣習が生まれ、それに対して抵抗を感じる人がいる事を示す。投書者の年齢は明記されていないが、回答者の年齢は50代である。誕生パーティーの招待客が自分の食事代金を払う事を普通と思う世代と“やっぱり間違っている”と思う世代間の考えが衝突している。このような意見のやり取りを読むことで、一般の読者は、自分の考えや経験と照らし合わせて、新しいやり方に対する自分の態度を決め、行動を起こすのではないだろうか。

以上、人生相談コラムが一つの話題に関して様々な意見や経験談を継続して掲載する例を示した。このように、コラムにおいて、相談や回答、さらには他の読者からの意見や違う視点からの問題提起がなされるので、コラムの読者は情報を収集し、疑問を投げかけ、自分なりの解釈で受け入れる。このように人生相談コラムの回答者、相談者、読者が議論する中で、世間一般の意見、価値観や行動の基準が生み出され定義されるのではないだろうか。人生相談コラムは新たな価値観を形成し、あるいは多様な価値観の共存を推進する役割を担っている

のではないだろうか。

5. まとめ

本稿では2006年のアメリカの人生相談コラム「Annie's Mailbox」を調査し、どのような投書が掲載され、相談の内容にどのような特徴があったかを最初に示した。次いで相談に対する回答にどのような特徴があったかを見て、そこから伺える事柄を論じた。最後に、ある問題に対する投書と他の読者の反応などが継続的に掲載されることを見てそこから何が窺えるのかをみた。

本調査では、人生相談に掲載される投書を人間関係、社会慣習・マナー、個人の問題、児童の問題の4つに分類したが、相談数が多い順から人間関係に関する問題、ついで社会慣習・マナー、個人に関する問題であった。また、人間関係の問題では、夫婦、親子、兄弟、親戚といった家族間の問題が多く取り上げられた。社会慣習・マナーでは結婚に関する相談が多く、個人の問題では、病気や薬物依存の相談が多かった。児童の問題では、複雑な家族関係の中の児童の教育・しつけに関する相談が多かった。このような相談内容が、そのまま一般のアメリカ人の抱える問題とはいえないであろうが、人生相談の掲載紙数、読者数、投書数などを考えると、人生相談に寄せられた問題と一般のアメリカ人が持つ問題における大まかな傾向は一致するのではないだろうか。

本調査の人生相談コラムの回答においては、相談者自身による問題解決を支援するため、また人生相談コラムの情報を補完するためにもNPO機関が紹介されることが多かった。このことからアメリカには信頼に足るNPO機関があり、一般の人にとってNPO機関が利用しやすく身近なものであるといえよう。さらに、回答ではカウンセリングが助言される事が多かったが、カウンセラーは社会的に信頼される専門職であること、カウンセリングが通常の問題解決に利用される身近なものではないかと思われる。このような回答の傾向から、本調査

対象のアメリカの人生相談は安部 [2004] の研究とは逆に、回答者は権威的に回答を与えるのではなく、相談者と対等の立場から助言し、相談者自身による問題解決を支援する姿勢であったことがわかる。

針谷 [1990] は過去の日本における人生相談の回答では、その時代の価値観を前提としてそれから逸脱する行為をしないための助言が与えられたが、一つの固定化された価値観がなくなり、多様な価値観や多様な生き方が承認される時代にあっては、相談者自身の持つ選択肢を示し、決断を促すものへと変化している [p58] と言う。しかし、相談者自身に選択肢を示し決断を促すことだけではなく、本調査のアメリカの人生相談はより積極的な役割を果たしていたと思われる。

コラムでは相談者、回答者、一般読者を巻き込んで、ある問題に関する多方面からの議論が行われ、賛否両論がかわされ、経験談や、相談機関、統計上の数字などが提供された。その議論が、非公式な教育の場となっていて、一般読者の価値観や社会慣習の形成に影響しているのではないだろうか。コラム側のスタッフとコラムへの投書者や読者によって長い時間をかけてコラムの文化が形成され (Gudelunas 2005)、その社会的影響が社会一般にも及ぶのではないかと思われる。

筆者は、アメリカの人生相談コラムはその時代のアメリカ人の姿をうかがうのに有効な研究対象であり、アメリカ社会が抱える諸問題に関して、人生相談を切り口としてみると、興味深い様相が窺えると考ええる。しかし、本稿は調査対象をアメリカのひとつの人生相談コラムに限って2006年という期間に行われたものであり、アメリカ社会の一部を見たに過ぎない。また、本稿では、統計上の数値をアメリカと日本で対比することはしていない。人生相談コラムに関して、今後、長期間にわたる研究や、複数のコラムを対象にした研究、又人生相談から見た日米の文化比較を目的とした研究が行われる事を希望したい。

注

- 1 VOA ホームページ http://www.manythings.org/voa/02/020804pa_t.htm
Cathy Weaver: - August 4, 2002:PEOPLE IN AMERICA — Ann Landers
- 2 Annie's Mailbox: <http://www.creators.com/lifestylefeatures/annies-mailbox.html?columnName=ama>
- 3 シカゴ歴史協会 <http://www.chicagohistoricalsociety.org>
- 4 Dorothy Dix に関する Austin Peay State University ホームページ <http://library.apsu.edu/dix/dix.htm>
- 5 Ann Landers コラムの初代の回答者は Ruth Crowley であったが、その死後に 2 代目の回答者として Esther Pauline Friedman が就任したのが 1955 年であった。
- 6 Dear Abby ホームページ <http://www.uexpress.com/dearabby/>
現在は初代回答者の娘 Jeanne Phillips により継続されている。
- 7 フーバーズ社ホームページ <http://www.hoovers.com/free/>
- 8 マーゴ・ハワードの言葉の出典
http://www.mydailyregister.com/articles/2006/07/21/news/local_news/news02.txt
- 9 Ann Landers の調査 Landers, Ann: Wake Up and Smell the Coffee, pp14-15
- 10 祖父母情報センターの報告では 2000 年の人口動態統計で祖父母と生活する孫は 18 歳以下では 6.3% にあたる 450 万人、そのうち 80 万人の子供は親ではなく祖父母が養育。(AARP ホームページ) http://www.aarp.org/research/international/perspectives/nov_05_grandparents.html
- 11 NCCS NCCS (National Center for chritalestatistics) <http://nccsdataweb.urban.org/PubApps/profile1.php?state=US>
<http://nccsdataweb.urban.org/FAQ/index.php?category=31?state=US>
- 12 National Institute on Alcohol Abuse and Alcoholism
- 13 U.S. Department of Labor Bureau of Labor Statistics <http://www.bls.gov/oco/ocos067.htm>
- 14 カール・ロジャーズ (1902 - 1987) アメリカの臨床心理学者、非指示的来談者中心療法提唱 アメリカのカウンセリングの基本的考えを築く
- 15 アメリカアルコール乱用・依存症局の統計 (2001 - 2002) National

Epidemiologic Survey on Alcohol and Related Conditions: Selected Findings. Vol.29 No.2, 2006, p79-93

- 16 DSM- IV The Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders, Fourth Edition
- 17 Alcohol abuse (アルコール乱用) と Alcohol dependence (アルコール依存)

DSM IVの規定ではアルコール飲用によって社会的、法的、対人関係において繰り返し問題を引き起こすのに関わらず飲用を止めないことをアルコール乱用と規定する。アルコール飲用で身体的、精神的な悪影響がある。治療には短期間の治療やカウンセリング、教育が有効。一方、アルコール依存は以上の条件を満たした上で、アルコールを飲まない禁断症状が起き、禁酒できず、アルコールへの耐性を持つなどの症状が加わる状態をいうと DSM- IVで規定されている。治療には強制的なアルコールからの離脱治療や医療、長期にわたるカウンセリングが必要とされる。

引用文献

- Castro, Janice: 1981 Advice for the Lonely Hearts *Time Magazine*; January 19
- Entwistle, Vikki: 1999 Who's afraid of the newspaper advice column? *CMAJ*; 6(4) 397-8
- Gudelunas, D.: 2005 Talking Taboo: Newspaper Advice Columns and Sexual Discourse, *Sexuality & Culture*, Vol.9 No.1 (Winter)
- Kogan, Rick: 2003 America's Mom: the life, lessons, and legacy of Ann Landers, Perennial currents, New York
- Landers, Ann: 2003 A Life in Letters: Ann Landers' letters to her only child [edited by] Margo Howard: Warner Books, New York
- Molnar FJ, Man-Son-Hing M, Dalziel WB, Mitchel SL, Power BE, Byszewski AM, et al.: 1999 Assessing the quality of newspaper medical advice columns for elderly readers, *CMAJ*; 6(4)383-5.
- U.S. Department of Labor Bureau of Labor Statistics
<http://www.bls.gov/oco/ocos067.htm>
- 阿部圭子 2001「助言のストラテジーの日米比較」『共立国際文化』第18号 59-69頁
- 2004「助言のディスコース—『日米ラジオ人生相談番組』の事

- 例研究」『共立国際文化』第21号 31-42頁
- 今井元子 1998『アメリカ文化とボランティア』日本図書刊行会
- 柏木 宏 1996『ボランティア活動を考えるアメリカの事例から 岩波ブックレット No.403』岩波書店
- 加藤秀俊 1953「身の上相談の内容分析」『思想の科学・芽』9/10
- 川崎悦子 2003「“Ann Landers”と“Dear Abby”から窺う、アメリカにおける結婚の現実」『千葉工業大学研究報告』人文編 第40号 79-91頁
- 2004「“Ann Landers”と“Dear Abby”から窺う、アメリカに於ける離婚、再今後の試練と苦悩」『千葉工業大学研究報告』人文編 第41号 79-91頁
- 2005「Dear Ann LandersとDear Abby”から窺う、アメリカにおける同性愛者の直面する現実、同権を認める動きと反動」『千葉工業大学研究報告』人文編 第42号 99-110頁
- 瀬戸岡紘 2005『アメリカ 理念と現実』時潮社
- 針谷順子 1990「「不幸」も世につれ 身の上相談の変遷」『思考の科学』思想の科学社 54-59頁
- 濱本サト子 2003「Cultural Exercises from Critical Thinking through Reading the American Column “Dear Ann Landers”」『安田女子大学紀要』第31号 59-68頁
- 渡辺一雄 1992『体験的フィランソロピー』創流出版

資料1 紹介されたNPOなどの機関（2006年）

■家族

家庭内暴力 1/10.2/6.3/6.5/17.6/17.7/6.7/25.8/7.8/31.9/8.11/20

National Domestic Violence Hotline(<http://www.ndvh.org>)

Domestic Abuse Helpline for Men (<http://www.dahmw.org>)

Stop Abuse for Everyone (safe4all.org)

Crisis Center for Domestic Violence

(<http://www.crisisconnectioninc.org/Links.htm>)

主婦支援（職業・家事訓練）1/3.3/19.4/6.4/10.4/21

Department of Labor (<http://www.dol.gov/>)

YWCA (ywca.org)

Act One-Stop Centers

(www.doleta.gov/usworkforce/onestop/onestopmap.cfm)

United Way(<http://national.unitedway.org>)

The Alliance for Children and Families (www.alliance1.org)

Samaritan Counseling Centers (samaritaninstitute.org)

Flylady.net(www.FlyLady.net)

義理の家族 3/1.5/11.8/11.7/27

Stepfamily Association of America (saafamilies.org).

Adult Children of Divorce (acod.net)

National Stepfamily Resource Center (stepfamilies.info)

夫婦間不和 2/3.6/1.7/5

American Association of Sexuality Educators, Counselors and Therapists (aasect.org)

American Psychological Association (apa.org)

老人

高齢者医療、介護・介護虐待 1/21.2/22.3/8.3/30.5/15/17.5/25.8/218/28.10/7.10/12

Medicare (<http://www.medicaretoday.org>)

Well Spouse Association (wellspouse.org)

Eldercare Locator (eldercare.gov)

National Association of Professional Geriatric Care Managers (caremanager.org)

National Family Caregivers Association(nfcacares.org)

孤独・孤独対策 1/17.8/9.8/17

YMCA, churches, synagogues, Agency on Aging.

Toastmasters International (<http://www.toastmasters.org>)

Red Hat Society (redhatsociety.com)

児童

虐待 2/9.3/17.3/20.4/23.6/2

Center for the Prevention of Child Abuse (www.msccpa.com)

Division of Family Services Child Abuse hotline.

(<http://www.dphhs.mt.gov/cfsd>)

Stop It Now! (stopitnow.com)

Child Protective Services

(<http://www.childwelfare.gov/pubs/reslist/cbttan/nrccps.cfm>)

養育・教育 2/20.8/2.8/3.9/10

clergy, United Way, the YMCA

Alliance for Children and Families (alliance1.org).
 Newborn Lifeline Network (www.newbornlifeline.org)
 Internet Safety Kit (www.pollyklaas.org)
 AARP (aarp.org/families/grandparents)
 出生の情報 2/3.6/7
 International Soundex Reunion Registry(isrr.org)
 New Jersey Board of Medical Examiners
 (<http://www.state.nj.us/lps/ca/bme/index.html>)

■ 病気・医療

医療

医療保険 5/1.5/10.9/14.10/25
 Medicare (www.MedicareToday.org)
 CoverTheUninsured.org(<http://covertheuninsured.org>)
 Children's Health Insurance Program
 (<http://www.cms.hhs.gov/home/schip.asp>)
 Guide to Health Issues for Voters(www.familydoctor.org)
 医療記録腕輪 5/24
 MedicAlert 1-800-432-5378, (www.medicalert.org)

中毒症

アルコール 2/6.2/28.4/20.4/26.7/24.9/12.10/9.10/26.11/17.11/28.12/20.
 12/24

Adult children of Alcoholics(<http://www.adultchildren.org>)
 Al-Anon (al-anon.alateen.org).
 Alcoholics Anonymous (aa-intergroup.org);
 Smart Recovery (smartrecovery.org);
 Women for Sobriety (womenforsobriety.org).
 Substance Abuse and Mental Health Services Administration (samhsa.gov)
 鎮痛剤、薬物 1/16.2/1.10/13.1/29.2/13.3/8.5/20.10/29.11/4.12/11.12/20.1
 2/24
 Narcotics Anonymous (na.org)
 Pills Anonymous (pillsanonymous.com)
 Marijuana Anonymous(www.marijuana-anonymous.org),
 Gamblers Anonymous (gamblersanonymous.org).

Because I Love You (becauseIloveyou.org)

Families Anonymous (familiesanonymous.org)

Al-Anon (alateen-al-anon.org)

Nar-Anon (nar-anon.org)

National Alcohol & Drug Abuse Crisis Line 1-800-234-0420

National Drug Information Treatment and Referral Hotline
1-800-662-HELP

American Academy of Pain Management (aapainmanage.org)

American Pain Foundation (painfoundation.org)

Salvation Army

禁煙 2/23.5/7

Nationwide Consortium of Telephone Quitlines (Quitnet.com)

The National Cancer Institute (www.smokefree.gov.)

ゲーム中毒 11/1

World of Warcraft (wowdetox.com)

On-Line Gamers Anonymous (olganon.org.)

精神疾患

精神病・うつ状態 1/10.1/16.1/19.2/25.4/19.8/11.10/15.11/2.11/5.11/9.12/
4.12/6

National Alliance on Mental Illness (www.nami.org)

Beacon of Hope (www.lightship.org);

Depression and Bipolar Support Alliance (dbsalliance.org);

National Alliance on Mental Illness (www.nami.org)

Anxiety Disorders Association of America (www.adaa.org)

Kidshealth.org(<http://www.kidshealth.org/index.html>)

強迫神経症 5/15.7/28.7/29.10/23

Obsessive-Compulsive Foundation (ocfoundation.org) Obsessive-
compulsive Disorder and Obsessive-compulsive Personality
Disorder.(www.nimh.nih.gov/healthinformatio)

COSA (cosa-recovery.org),

S-Anon (sanon.org)

カウンセリング 4/14.6/24.10/14.10/27

United Way(<http://national.unitedway.org>)

the YMCA, local hospitals, churches, university psychology
departments and graduate school counseling departments; Recovery

- Inc. (recovery-inc.org)
 American Association of Pastoral Counselors (www.aapc.org)
 Samaritan Counseling Centers (samaritaninstitute.org)
 Alliance for Children and Families (www.alliance1.org)
 National Association of Social Workers (NASW)(naswdc.org)
 American Mental Health Counselors Association (amhca.org)
 American Counseling Association (http://www.counseling.org)
- 死の恐怖、喪失 11/2.11/9
 AARP Grief and Loss Programs(aarp.org/griefandloss)
 Beginning Experience International Ministry
 (beginningexperience.org)
- 自閉症 9/26
 Autism Society of America(autism-society.org)
 Paws for Ability (4pawsforability.org)
 Canine Companion for Independence (www.caninecompanions.org)
- 病気
- 慢性痛 2/16.3/15.4/12.5/12
 American Chronic Pain Association (theacpa.org)
- 性病 1/31.8/17
 American Social Health Association (www.ashastd.org)
- アレルギー 5/12.10/20
 American Lung Association(http://www.lungusa.org)
 Food Allergy & Anaphylaxis Network (www.foodallergy.org)
- 癌 10/11.2/26
 National Ovarian Cancer Coalition (ovarian.org)
 Creighton University Hereditary Cancer Center in Omaha, Neb.,
 (http://medicine.creighton.edu/HCI)
- 関節炎 11/24.12/4
 Arthritis Foundation (www.arthritis.org)
- オストミー 6/24.12/21
 United Ostomy Associations of America (uoaa.org)
- 神経麻痺 2/5
 United Cerebral Palsy (www.ucp.org)
- 心臓病 3/4
 American Heart Association (americanheart.org)

パーキンソン病 9/21

Job Accommodation Network (jan.wvu.edu)

Parkinson's Disease Foundation (pdf.org)

脳性まひ 4/24

rehabilitation hospital

甲状腺 5/5

(thyroid.about.com)

(http://thyroid.about.com/About_Thyroid_Disease.htm)

(nlm.nih.gov/medlineplus/thyroiddiseases.html)

高度機能障害 10/30

Brain Injury Association of America (www.biausa.org)

ライム病 4/7

American Lyme Disease Foundation Inc. (www.aldf.com)

過敏性腸症候群 11/28

IBS Self Help and Support Group (ibsgroup.org)

クローン病 12/21

(www.irritatedbeingsingle.com)

(www.meetanostomate.com)

(www.dating.crohnszone.org)

Crohn's & Colitis Foundation of America (www.ccfa.org)

トゥーレット病 1/13

Tourette Syndrome Association(111.tsa-usa.org)

腺維筋痛症 12/4

National Fibromyalgia Association (fmaware.org)

夜尿症 4/21

The National Kidney Foundation (kidney.org)

しらみ 2/1

Lice Solutions Resource Network Inc (www.licesolutions.org)

美容整形 5/28

"Our Bodies, Ourselves" (ourbodiesourselves.org)

死産 8/29

Now I Lay Me Down To Sleep. (www.nowilaymedowntosleep.org)

献体 8/4 University of Florida College of Medicine

(www.med.ufl.edu/anatbd/usprograms.html)

■ その他

犯罪

セクハラ 6/19.9/4

universities, hospitals, community centers and YMCA
 Equal Employment Opportunity Commission(eeoc.gov)

犯罪被害 7/23.8/30

Rape, Abuse and Incest National Network (rain.org)
 National Sexual Assault Hotline 1-800-656-HOPE
 National Center for Victims of Crime (ncvc.org)

自殺目撃 5/8

Survivors of Suicide (survivorsof suicide.com)
 the American Association of Suicidology (suicidology.org)
 Posttraumatic Stress Disorder Alliance (ptsdalliance.org)

デートレイプ 11/21

U.S. Dept. of Health and Human Services(<http://www.hhs.gov>)

軍隊、イラク関連

軍関係 1/15.5/10

Department of Veterans Affairs(www.va.gov/directory)
 militaryspousesupport.net.(<http://www.militaryspousesupport.net>)

戦争遺品 3/3.4/24

Veterans History Project in Washington, D.C. (www.loc.gov/vets)
 The Salvation Army Family Tracing Service
 (<http://www.salvationarmy.org.au/sa/familytracing.asp>)
 Military Locator Services
 (<http://usmilitary.about.com/od/locatorservices>)

イラク民間企業勤務者家族支援 12/16

(americancontractorsiniraq.com.)

社会一般

動物愛護 1/26.7/15.10/18.11/26

Humane Society (<http://www.hsus.org>)

ゲイ・女装 1/4.9/14.10/5.12/5

Society for the Second Self Inc. (tri-ess.org)
 PFLAG (pflag.org)

借金 4/28.6/8.11/25

National Foundation for Credit Counseling (nfcc.org)
 Debtors Anonymous (debtorsanonymous.org)

- studentaid.ed.gov、1-800-4-FED-AID (1-800-433-3243)
- 運転 / 安全運転 4/8.6/12.7/25
National Highway Traffic Safety Administration (www.nhtsa.dot.gov)
Motorcycle Safety Foundation (msf-usa.org)
AARP Driver Safety Program(www.aarp.org/drive)
- 転職 12/19
National Career Development Association (ncda.org)
- 手話通訳登録 12/9
Registry of Interpreters for the Deaf (www.rid.org)
- 子供をなくした親の会 12/3
TCF(www.compassionatefriends.org)
- シングルペアレント 12/8
Parents Without Partners (parentswithoutpartners.org)
- カルト宗教 2/15
FACTnet.org (<http://www.factnet.org>)
- メール着信拒否 5/28
Mail Preference Service, Direct Marketing Association
(dmaconsumers.org),
- 若者のボランティア 4/17
Youth Service America(www.YSA.org)
youth service in communities (www.SERVE.net)
- 人種差別 1/25
Southern Poverty Law Center (www.tolerance.org)
- 大学生の人権 2/2
Federal Family Educational Rights and Privacy Act
(www.ed.gov/policy/gen/guid/fpco/ferpa/index.html)
- 美容室の衛生管理 6/19
Cosmetology Commission (<http://www.ncacares.org/resources/links/>)
- 慈善団体信用調査 11/18
Better Business Bureau Wise Giving Alliance(give.org)
American Institute of Philanthropy(charitywatch.org)
- 空港の規則 1/21
Transportation Security Administration (www.tsa.gov.)